

(様式第9)

海大病第 661 号
平成21年10月2日

厚生労働大臣

殿

北海道大学病院長 浅 香

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	120.25人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	244人	252人	445.6人	看護業務補助	52人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	108人	40人	140.0人	理学療法士	10人	臨床検査技師	70人
薬 剤 師	37人	2人	38.5人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助 産 師	36人	0人	36.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	757人	27人	777.9人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	14人
准 看 護 師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	13人	0人	13.0人	歯 科 技 工 士	6人	事 務 職 員	172人
管理栄養士	7人	0人	7.0人	診療放射線技師	49人	そ の 他 の 職 員	30人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	807.79人	21.95人	829.74人
1日当たり平均外来患者数	2,328.38人	689.23人	3,017.60人
1日当たり平均調剤数	711.3 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD—DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV—DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	人
31P—磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術	有・ <input type="radio"/> 無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・ <input type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・ <input type="radio"/> 無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・ <input type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有 ・無	0人
カフェイン併用化学療法	有・ 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 ・無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 ・無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・ 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ 無	人
乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有 ・無	44人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	342人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	141人
・多発性硬化症	163人	・ウェグナー肉芽腫症	27人
・重症筋無力症	116人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	113人
・全身性エリテマトーデス	634人	・多系統萎縮症	89人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	14人
・再生不良性貧血	118人	・膿疱性乾癬	10人
・サルコイドーシス	339人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	38人	・原発性胆汁性肝硬変	132人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	313人	・重症急性膵炎	6人
・特発性血小板減少性紫斑病	197人	・特発性大腿骨頭壊死症	133人
・結節性動脈周囲炎	70人	・混合性結合組織病	51人
・潰瘍性大腸炎	195人	・原発性免疫不全症候群	58人
・大動脈炎症候群	75人	・特発性間質性肺炎	22人
・ピュルガー病	44人	・網膜色素変性症	45人
・天疱瘡	77人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	239人	・原発性肺高血圧症	15人
・クローン病	102人	・神経線維腫症	72人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	19人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	31人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・パーキンソン病関連疾患	472人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	18人
・アミロイドーシス	16人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	6人
・後縦靭帯骨化症	189人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	24 件		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	37 例	剖検率 9.04 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
顎骨再生腫瘍制御機構を兼ね備えた細胞応答型DDS担体の開発	柏崎 晴彦	高齢者歯科	1,600,000	補委 科学研究費(基盤C)
ウェアラブル筋電図測定システムを用いた顎関節症患者の覚醒時ブラキシズムの実態解明	山口 泰彦	高次口腔医療センター	3,380,000	補委 日本学術振興会化学研究費補助金
ブラキシズムによる頭頸部筋の慢性疼痛発現メカニズムの解明	岡田 和樹	高次口腔医療センター	1,300,000	補委 日本学術振興会化学研究費補助金
成人難治性造血器腫瘍に対する非血縁者間の同種造血幹細胞移植法の確立に関する研究	今村 雅寛	血液内科	100万円	○補委 厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	今村 雅寛	血液内科	100万円	○補委 厚生労働省
成人T細胞白血病(ATL)に対する同種造血幹細胞移植療法の開発とそのHTLV-I排除気候の解明に関する研究	今村 雅寛	血液内科	40万円	○補委 厚生労働省
NK受容体発現細胞障害性CD8細胞と免疫制御性CD4細胞の同時増幅とその臨床応用	田中 淳司	血液内科	130万円	○補委 日本学術振興会
同種末梢造血幹細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	田中 淳司	血液内科	80万円	○補委 厚生労働省
抗リン脂質抗体症候群:病因の解明と新たなる治療ターゲット	小池隆夫	第二内科	6,500,000	補委 文部科学研究費基盤研究(B)
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	小池隆夫	第二内科	5,000,000	補委 厚生労働省エイズ対策研究事業

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性疾患克服研究の評価ならびに研究の方向性に関する研究	小池隆夫	第二内科	1,300,000	補委 厚生労働省難治性疾患克服研究事業
新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発	小池隆夫	第二内科	38,000,000	補委 厚生労働省難治性疾患克服研究事業
免疫疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチ	小池隆夫	第二内科	2,000,000	補委 厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究	小池隆夫	第二内科	2,500,000	補委 厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
薬剤耐性HIVの動向把握のための調査体制確立およびその対策に関する研究	小池隆夫	第二内科	4,000,000	補委 厚生労働省エイズ対策研究事業
関節リウマチ寛解導入療法体系化に関する研究	渥美達也	第二内科	2,500,000	補委 厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
関節リウマチにおける生物学的製剤の長期安全性と副作用リスク因子に関する疫学研究	渥美達也	第二内科	300,000	補委 文部科学研究費基盤研究(B)
ANCA関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前向き臨床研究	渥美達也	第二内科	3,000,000	補委 厚生労働省難治性疾患克服研究事業
自己免疫疾患に関する調査研究	渥美達也	第二内科	2,400,000	補委 厚生労働省難治性疾患克服研究事業
膠原病の生命予後規定因子である肺合併症の診断及び治療法の再評価と新規開発に関する研究	保田晋助	第二内科	2,000,000	補委 厚労省科学研究費免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己免疫疾患におけるRasGRPファミリー分子の発現検討	保田晋助	第二内科	1,400,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
小児・思春期(若年)発症2型糖尿病患者の合併症発症率の経年的全国調査	吉岡成人	第二内科	250,000	補委	厚生省科学研究費
脂肪細胞内におけるPerilipinの脂肪分解制御機構と肥満・代謝疾患	三好秀明	第二内科	4,260,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
糖尿病診療均てん化のための標準診療マニュアル作成とその有効性の検証	吉岡成人	第二内科	1,400,000	補委	厚生省科学研究費
多発性嚢胞腎モデル動物の作製と薬効評価システムの確立	望月俊雄	第二内科	1,700,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
Sec63コンディショナルノックアウトマウスを使用した腎嚢胞、肝嚢胞の解析	西尾妙織	第二内科	9,620,000	補委	文部科学研究費若手研究(A)
さっぽろバイオクラスター“Bio-S”「認知機能改善研究グループ:認知症診断バイオマーカー探索と神経変性抑制作用素材開発」	佐々木秀直	神経内科	700万円	補委	文部科学省
正常圧水頭症の疫学・病態と治療に関する研究	佐々木秀直	神経内科	50万円	補委	厚生労働省
重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究	佐々木秀直	神経内科	90万円	補委	厚生労働省
運動失調症に関する調査研究	佐々木秀直	神経内科	120万円	補委	厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
神経変性疾患に関する調査研究	佐々木秀直	神経内科	100万円	補	厚生労働省
筋萎縮性側索硬化症の病態に基づく画期的治療法の開発	佐々木秀直	神経内科	90万円	補	厚生労働省
治験の実施に関する研究[酢酸リュープロレリン]	佐々木秀直	神経内科	380万円	補	厚生労働省
遺伝性脊髄小脳変性症における病態機序の解明と新規生化学的指標の固定	矢部一郎	神経内科	120万円	補	文部科学省
多発性硬化症の病態における神経栄養因子の関与の解明	新野正明	神経内科	135万円	補	文部科学省
スモンに関する調査研究	矢部一郎	神経内科	70万円	補	厚生労働省
メラノーマとリンパ管のinteraction－転移促進因子は産生されるのか？－	堤田 新	形成外科	4,700,000	補	日本学術振興会
浸潤型ケロイド細胞は存在するのか！－効率的なケロイド治療を目指して－	佐々木 了	形成外科	9,400,000	補	日本学術振興会
ダイオキシン類介在性アンドロゲン受容体分解による前立腺癌細胞増殖抑制	丸山 寛	北海道大学 腎泌尿器外科	2,210,000円	補	日本学術振興会
高精度治療技術による低リスク高線量放射線治療に関する臨床研究	白土博樹	放射線科	20,000,000	補	厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
X線マイクロビーム加速器による次世代ミニマムリスク型放射線治療システムの研究開発	白土博樹	放射線科	27,900,000	補委	NEDO
4次元定位放射線治療の基礎	白土博樹	放射線科	9,300,000	補委	文部科学省
心血管ストレス応答におけるミトコンドリア活性酸素シグナル制御	筒井裕之	循環器内科	24700000	補委	文部科学省
メタボリックシンドロームにおける運動能力低下の分子機構の解明と治療への応用	絹川真太郎	循環器内科	2470000	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームにおける冠血管内皮機能障害の評価と有効な治療法の確立	納谷昌直	循環器内科	2600000	補委	文部科学省
特発性心筋症に関する調査研究	筒井裕之	循環器内科	1100000	補委	厚生労働省
慢性心不全におけるメタボリック症候群の意義に関する研究	筒井裕之	循環器内科	1000000	補委	厚生労働省
ヒスタミンと心不全の関連についての検討-H2レセプターブロッカーは心不全を改善するか	筒井裕之	循環器内科	1000000	補委	厚生労働省
大規模発現解析より得られた新規酵素心臓特異的ミオン軽鎖キナーゼ(cardiacMLCK)を利用した心不全治療薬・診断マーカーの開発	筒井裕之	循環器内科	1000000	補委	厚生労働省
動脈硬化性疾患の危険因子の性差と予防に関するコホート研究	筒井裕之	循環器内科	1000000	補委	厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
致死性遺伝性不整脈疾患の遺伝子診断と臨床応用	蒔田直昌	循環器内科	2500000	補 委 厚生労働省
心筋内血液量の定量による心不全治療の効果予測に関する研究	山田聡	循環器内科	1000000	補 委 日本超音波医学会
心肥大・心不全の発症・進展における酸化ストレスの役割に関する研究	筒井裕之	循環器内科	1500000	補 委 国立循環器病センター
全身麻酔後の悪心・嘔吐に対する術中低血圧の影響	黒住 章弘	歯科麻酔科	2,700,000	補 委 文部科学省
高齢者プロポフォール静脈内鎮静法におけるTCIポンプを用いた新しい管理方法の検討	藤澤 俊明	歯科麻酔科	700,000	補 委 文部科学省
延髄痛覚情報伝達システムの可塑性における免疫組織化学的手法による三次元的解析	詫間 滋	歯科麻酔科	2,700,000	補 委 文部科学省
PARsとVEGFが関与する敗血症性臓器不全発症機序解明とその制御法の確立	丸藤 哲	医学部侵襲制御医学講座救急医学	9,100千円	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助金
敗血症性脳症の病態解明	澤村 淳	医学部侵襲制御医学講座救急医学	1,950千円	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助金
重度歯周炎罹患歯の残存歯根膜を根面に増殖させた歯とBMPの移植による歯周組織再生	齋藤 彰	第二保存科	1,300千円(直接) 390千円(間接)	補 文部科学省
BMPと細胞の複合移植によって水平性骨欠損の歯周組織再生量の増大を目指す研究	齋藤 恵美子	第二保存科	800千円(直接) 240千円(間接)	補 文部科学省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
根面のBMP塗布とコラーゲンスキャフォールド移植による歯周組織再生療法の開発	宮治 裕史	第二保存科	1,100千円(直接) 330千円(間接)	補	文部科学省
接着性レジン上にセメント質再生を伴う垂直破折歯根接着治療法の開発	田中 佐織	第二保存科	800千円(直接) 240千円(間接)	補	文部科学省
口腔からQOL向上を目指す連携研究	菅谷 勉	第二保存科	500千円	委	新潟大学
有機酸誘導体と生体高分子から構成される医療用接着剤の歯科応用	川浪 雅光	第二保存科	2,000千円	委	オリンパス
骨髄間質細胞シートとBMP含有コラーゲンスポンジの併用移植による骨新生	井上 加菜	第二保存科	500千円	委	クラーク財団
ラットを用いた成長ホルモン投与による新生児慢性肺疾患治療効果の解析	長 和俊	周産母子センター	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
前向きコホート研究による先天異常モニタリング、特に尿道下裂、停留精巣のリスク要因と内分泌かく乱物質に対する感受性の解明	水上 尚典	産科・周産母子センター	4,620,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
抗がん剤をはじめとするヌクレオシド系薬物のトランスポーター介在輸送と薬効との関係	菅原 満	薬剤部	1,430,000円 (うち間接経費 330,000円)	補 委	日本学術振興会
精神疾患患者における薬剤に対する認知とアドヒアランス、心理検査との相関性の検討	久保田康生	薬剤部	400,000円	補 委	日本学術振興会
難治性内因性ぶどう膜炎再発機序に関する分子遺伝学的検討	北市伸義	眼科	1,300,000円	補 委	日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
熱ショック蛋白質の積極的誘導による眼炎症の制御	北明大洲	眼科	1,560,000円	補委 日本学術振興会
平成20年度基盤研究(B) 歯根膜の血管新生機構に対する機械的刺激の役割と加齢によるその常態変化	飯田 順一郎	矯正科	2,990,000円	補委 科学研究費補助金
平成20年度基盤研究(C) ナノマテリアルを応用した歯科矯正用FRP審美ワイヤーの開発	山方 秀一	矯正科	2,340,000円	補委 科学研究費補助金
平成20年度若手研究(B) pooled DNAタイピングを用いた骨格性下顎前突症の疾患感受性遺伝子の同定	梶井 貴史	矯正科	1,430,000円	補委 科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業 反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の確立	生駒一憲	リハビリテーション科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,200,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
高次脳機能障害者支援事業(リハビリ支援コーディネート事業)	生駒一憲	リハビリテーション科	2,244,580	補委 北海道受託事業
基盤研究(A) 人・機械・相互適応システムの構築に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,300,000	補委 科学研究費補助金
基盤研究(B) 機能的MRIを用いた脊髄損傷者の運動野に関する機能的な研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,820,000	補委 科学研究費補助金
基盤研究(B) 力学的環境変化により生じる膝蓋腱マトリクス改変現象の人為的制御に関する統合的研究	遠山晴一	リハビリテーション部	3,510,000円	補委 科学研究費補助金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
化学物質リスク研究事業 ポリエチレン微粒子により惹起される異物性炎症反応のバイオイメージングによる可視化に関する研究	遠山晴一	リハビリテーション部	1,000,000円	補委 厚生労働科学研究費補助金
経頭蓋直流電気刺激による高次脳機能障害の治療及びKM式安全運転助言検査と医学的評価を組み合わせた頭部障害患者における自動車運転の可否の検討	伊藤武哉	リハビリテーション科	985,200	補委 日本損害保険協会一般研究助成
経頭蓋直流電気刺激反復経頭蓋磁気刺激を用いた高齢脳外傷患者における高次脳機能障害に対する治療法の開発	竹内直行	リハビリテーション科	653,398	補委 日本損害保険協会一般研究助成
若手研究(B) 脳波解析と反復経頭蓋磁気刺激によるブレイン・マシンインターフェイスモデルの開発	竹内直行	リハビリテーション科	2,860,000	補委 科学研究費補助金
運動野固有周波数を用いた脳卒中後運動麻痺に対する両側反復経頭蓋磁気刺激法の開発	竹内直行	リハビリテーション科	2,000,000	補委 財団法人医科学応用研究財団
難治性気道疾患への新たな挑戦ー病態、診断、治療へのアプローチー	西村 正治	第一内科	3,400千円	補委 科学研究費(基盤研究(B))
マトリックスメタロプロテアーゼ誘導因子制御による難治性肺疾患への介入	別役 智子	第一内科	1,100千円	補委 科学研究費(基盤研究(C))
慢性喫煙と加齢が肺泡マクロファージアポトーシス細胞食能に与える影響	南須原 康行	第一内科	1,400千円	補委 科学研究費(基盤研究(C))
慢性閉塞性肺疾患(COPD)の発生機序、診断	西村 正治	第一内科	1,300千円	補委 科学研究費(厚生労働科研)
気管支喘息の有病率・罹患率およびQOLに関する全年齢階級別全国調査に関する研究	西村 正治	第一内科	3,000千円	補委 科学研究費(厚生労働科研)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
気道リモデリング、肺気腫形成におけるオステオポンチンの関与	今野 哲	第一内科	1,800千円	補委	科学研究費(基盤研究(C))
肺障害・修復機構における再生上皮細胞の意義	小田島 奈央	第一内科	1,200千円	補委	科学研究費(若手研究(B))
疾患早期診断のための糖鎖自動分析装置開発	西村 正治	第一内科	3,000千円	補委	受託研究
糖鎖シグナルの異常による肺気腫の発生機構の解明と治療戦略	別役 智子	第一内科	3,000千円	補委	科学研究費(厚生労働科研)
うつ病の認知病理に関する神経生理学的研究-前部帯状皮質の認知神経科学的アプローチ-	久住 一郎	精神科神経科	3,640,000(うち間接経費840,000)	補委	文部科学省科学研究費補助金
扁桃体を介した情動ストレスの神経化学的機序から気分障害の病態・発症機序を解明する	井上 猛	精神科神経科	1,950,000(うち間接経費450,000)	補委	文部科学省科学研究費補助金
ストレス脆弱性の脳内分子基盤-気分障害と神経細胞新生の関連に着目して-	中川 伸	精神科神経科	1,950,000(うち間接経費450,000)	補委	文部科学省科学研究費補助金
治療抵抗性統合失調症動物モデルにおける電気けいれん療法の作用機序に関する検討	伊藤 侯輝	精神科神経科	1,300,000(うち間接経費300,000)	補委	文部科学省科学研究費補助金
司法精神医療の適正な実施と普及のあり方に関する研究	小山 司	精神科神経科	29,000,000	補委	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
統合失調症患者における社会知覚および意思決定課題遂行の機能画像の検討	久住 一郎	精神科神経科	1,400,000	補委	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
双極性うつ病の難治化に関する研究	久住 一郎	精神科神経科	2,800,000	補委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
難治性うつ病に対するドパミン関連薬剤の効果とその効果予測因子に関する研究	井上 猛	精神科神経科	1,100,000	補委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
プライマリーケアで使用可能なDNAチップを用いたうつ病の診断指標の作成	中川 伸	精神科神経科	2,000,000	補委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
3D scaffold with carbon nanotube coated sponge	平田恵理	咬合系歯科	150,000円	補委 財団法人北海道大学クラーク記念財団平成20年度博士後期課程在学生海外派遣助成
カーボンナノチューブを三次元スキャホールド及び表面修飾として用いた口腔組織の再建	横山敦郎	咬合系歯科	4,100,000円	補委 平成20年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)
ナノ微粒子の体内動態可視化法の開発	横山敦郎	咬合系歯科	1,100,000円	補委 平成20年度厚生労働科学研究費補助金
時系列解析による咬合、全身姿勢、重心動揺および身体機能の関連性解明	坂口究	咬合系歯科	2,900,000円	補委 平成20年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)
高血糖期間の差がインプラント体埋入初期の周囲組織に与える影響	山本薫	咬合系歯科	1,350,000円	補委 平成20年度日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ))
カーボンナノチューブを三次元スキャホールド及び表面修飾として用いた口腔組織の再建	横山敦郎	咬合系歯科	4,100,000円	補委 平成21年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)
無歯顎症例における顎堤形態に応じた適切な咬合面形態の最適形状決定法による検討	高山芳幸	咬合系歯科	2,200,000円	補委 平成21年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
インプラント埋入初期におけるオッセオインテグレーション獲得を阻害する原因の解明	堀内留美	咬合系歯科	2,400,000円	補委 平成21年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)
時系列解析による咬合、全身姿勢、重心動揺および身体機能の関連性解明	坂口究	咬合系歯科	500,000円	補委 平成21年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)
基盤研究B「子宮体癌の新しい分子標的治療開発のためのp53変異とp63, p73の機能解析」	櫻木 範明	婦人科	4,810,000	補委 日本学術振興会
基盤研究C「BMPアンタゴニストを用いた癌間質相互作用の制御による癌治療戦略の検討」	首藤 聡子	婦人科	1,690,000	補委 日本学術振興会
「進行・再開子宮頸癌に対する標準的治療体系の確立に関する研究」	櫻木 範明	婦人科	600,000	補委 久留米大学
「子宮体癌に対する標準的科学的療法の確立に関する研究」	櫻木 範明	婦人科	1,000,000	補委 慶應義塾大学
ダブルネットワークゲルが生体内で誘導する関節軟骨自然再生現象の分子機序の解明	安田 和則	医学研究科 運動機能再建医学分野	20,800,000円	補委 (独)日本学術振興会
高機能ダブルネットワークゲルがin vivoで関節軟骨の自然再生を誘導する分子機序の解明	安田 和則	医学研究科 運動機能再建医学分野	50,000,000円	補委 (財)武田科学振興財団
除負荷による膝蓋腱マトリクス再構築現象を制御する分子動態の解明	北村 信人	医学研究科 運動機能再建医学分野	1,950,000円	補委 (独)日本学術振興会
磨耗粉により生じるオステオライシスにおけるMIFの関与とDNAワクチンによる制御	小野寺 伸	医学研究科 運動機能再建医学分野	1,690,000円	補委 (独)日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
低酸素状態を反映する新しいPET診断による口腔癌治療戦略	北川 善政	北海道大学大学院歯学研究科 口腔診断内科学教室	3,300,000	補委 文部科学省
嚥下に関与する筋群のエネルギー代謝と筋病理学的研究	北川 善政	北海道大学大学院歯学研究科 口腔診断内科学教室	1,200,000	補委 文部科学省
低酸素領域の分子イメージングに基づいた口腔癌治療戦略	北川 善政	北海道大学大学院歯学研究科 口腔診断内科学教室	1,000,000	補委 テルモ科学振興財団
口腔扁平上皮がん再発のリスクファクターとしてのp53ファミリーの意義	石川 誠	北海道大学病院 高次口腔医療センター 障害者歯科	1,500,000	補委 文部科学省
ヒト舌癌に対する癌特異的発現増強アデノウィルスベクターの開発	葛巻 哲	北海道大学病院 口腔系歯科口腔内科	1,900,000	補委 文部科学省
遺伝子操作で作成した血管新生抑制因子産生細胞の移植による抗血管新生療法の開発	七戸俊明	第二外科	6,900,000円	補委 文部科学省
外科系医療技術修練の在り方に関する研究	近藤 哲	第二外科	1,829,136円	補委 厚生労働省
バーチャルスライドシステムを用いたがんの病理診断支援のあり方に関する研究	松野 吉宏	病院病理部	16,456,000	補委 厚生労働省科学研究費
悪性胸膜中皮腫の診断および治療法の確立とアスベスト曝露の実態に関する研究	松野 吉宏	病院病理部	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
がん診療を標準化するための病理診断基準の確立に関する研究	松野 吉宏	病院病理部	1,000,000	補委 厚生労働省がん研究助成金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
多施設共同研究の質の向上のための研究体制確立に関する研究	松野 吉宏	病院病理部	1,000,000	補委 厚生労働省がん研究助成金
中皮腫における遺伝子異常検索:細胞診断応用の可能性	丸川 活司	病院病理部	590,000	補委 科学研究費(奨励研究)
科学研究費補助金 特定領域研究「皮膚癌の浸潤、転移能における表皮接着分子の直接的関与についての解析」	清水 宏 (研究代表者)	皮膚科	6,800,000	補委 文部科学省
科学研究費補助金 特定領域研究「17型コラーゲン ectodomain sheddingの生理的機能の解明」	清水 宏 (研究代表者)	皮膚科	3,400,000	補委 文部科学省
保健医療分野における基礎研究推進事業研究プロジェクト「自己免疫性疾患に対する新しい生物製剤の開発」	清水 宏 (研究代表者)	皮膚科	90,000,000	補委 独立行政法人 医薬基盤研究所
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)「稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究」	清水 宏 (研究分担者)	皮膚科	2,000,000	補委 厚生労働省
研究事業名:橋渡し研究支援拠点形成プログラム 研究題目:オール北海道先進医学・医療拠点形成「R&Dプロジェクトのテーマ:ヒトリコンビナントVII型コラーゲン投与による表皮水疱症患者の治療」	清水 宏 (研究代表者)	皮膚科	3,400,000	補委 文部科学省
科学研究費補助金 基盤研究(B)「魚鱗癬に対する新規治療法ならびに胎児療法の開発」	秋山真志 (研究代表者)	皮膚科	6,100,000	補委 日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C)「自己抗原ヒト化マウスを用いた後天性表皮水疱症モデルの作成と新規治療法開発への応用」	芝木晃彦 (研究代表者)	皮膚科	1,500,000	補委 日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C)「骨髄由来表皮細胞を用いた再生医療」	阿部理一郎 (研究代表者)	皮膚科	2,800,000	補委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
科学研究費補助金 若手研究(B)「表皮水疱症に対する遺伝子治療効果の検証:疾患モデルマウスのトランスジェニック救済」	伊藤 圭 (研究代表者)	皮膚科	2,000,000	補委 日本学術振興会
科学研究費補助金 若手研究(スタートアップ)「骨髄移植による表皮水疱症治療:特異的ケモカインを用いた検討」	猪熊大輔(研究代表者)	皮膚科	1,350,000	補委 日本学術振興会
科学研究費補助金 若手研究(A)「17型コラーゲンの分子イメージングによる水疱性類天疱瘡の病態メカニズムの解明」	西江 渉(研究代表者)	皮膚科	9,600,000	補委 日本学術振興会
科学研究費補助金 萌芽研究「mRNA trans-splicingを応用した表皮水疱症モデルマウスの治療」	西江 渉(研究代表者)	皮膚科	3,200,000	補委 日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C)「体細胞超変異関連因子の解析による皮膚B細胞リンパ腫の早期診断法の確立」	小玉和郎(研究代表者)	皮膚科	700,000	補委 日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C)「Gene silencingによる水疱型先天性魚鱗癬紅皮症の新規治療戦略」	阿部由紀子(研究代表者)	皮膚科	800,000	補委 日本学術振興会
プロテオーム解析による頭頸部癌診断・治療の新しい展開	福田 諭(代表)	耳鼻咽喉科	4,550,000	補委 科学研究費 基盤研究(B)
進行頭頸部癌に対する漢方治療の有用性評価	福田 諭(分担)	耳鼻咽喉科	8,000,000	補委 厚生労働科学研究費
急性高度難聴に関する調査研究	福田 諭(分担)	耳鼻咽喉科	13,000,000	補委 厚生労働科学研究費
ヘルパーT細胞を中心とした革新的免疫治療法の開発	福田 諭(分担)	耳鼻咽喉科	41,818,000	補委 NEDO

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
突発性難聴およびベル麻痺における新規病因の検索	古田 康(代表)	耳鼻咽喉科	130,000	補 委 科学研究費 基盤研究(C)
頭頸部癌抗癌剤耐性における網羅的マイクロRNAプロファイリング	折館伸彦(代表)	耳鼻咽喉科	2,340,000	補 委 科学研究費 基盤研究(C)
ゲノム・プロテオーム解析を用いた頭頸部癌EGFR過剰発現関連分子の同定	本間明宏(代表)	耳鼻咽喉科	3,380,000	補 委 科学研究費 基盤研究(C)
放射線照射を生き延びた癌細胞に秘められた謎:癌根絶への多角的アプローチ	本間明宏(分担)	耳鼻咽喉科	9,200,000	補 委 科学研究費 基盤研究(B)
がん治療による口腔内合併症の予防法及び治療法の確立に関する研究	本間明宏(分担)	耳鼻咽喉科	11,820,000	補 委 厚労省がん研究助成金
ヒストン脱アセチル化酵素活性化剤を用いたアレルギー性鼻炎根治のための基礎的研究	中丸裕爾(代表)	耳鼻咽喉科	1,820,000	補 委 科学研究費 基盤研究(C)
平衡機能における非共同性眼球運動の役割とその神経機構の解明	武市紀人(代表)	耳鼻咽喉科	3,120,000	補 委 科学研究費 基盤研究(C)
骨固定型補聴器CB0601の伝音障害患者及び片側聾患者に対する有効性と安全性の臨床試験	福田 諭	耳鼻咽喉科	1,246,000	補 委 <治験>(株)日本コクレア
献血グロベニン-I-ニチャク使用成績調査(貯法変更「室温保存品(30℃以下、禁・凍結)」に伴う使用成績調査)	折館伸彦	耳鼻咽喉科	115,000	補 委 <治験>日本製薬(株)
頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法の検討 ー多施設無作為比較臨床試験ー	本間明宏	耳鼻咽喉科	147,000	補 委 <受託研究>先端医療振興財団 臨床研究情報センター

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
核医学手法による実験動物でのプラークの性状評価と治療効果判定	玉木 長良	核医学分野	8,060千円	補 委 文部科学省
PETを用いた喫煙者の冠動脈内皮機能障害と治療効果に関する研究	玉木 長良	核医学分野	2,000千円	補 委 喫煙科学研究財団
分子レベルの機能診断と標的治療の実現	玉木 長良	核医学分野	21,000千円	補 委 共同研究費
新規化合物の11C標識体合成検討およびPET試験による薬効検討	玉木 長良	核医学分野	3,360千円	補 委 受託研究費
頭部外傷における神経脱落とリハビリテーション効果の予測について	志賀 哲	核医学分野	1,300千円	補 委 文部科学省
分子イメージングによるがん病態の動的解析:臨床分子イメージングの実現へ向けて	久下 裕司	核医学分野	7,410千円	補 委 文部科学省
脳機能再生機構の解析と分子イメージング～臨床画像診断の実現を目指して～	久下 裕司	核医学分野	1,300千円	補 委 文部科学省
分子イメージング技術の創薬への応用	久下 裕司	核医学分野	10,395千円	補 委 共同研究費
PETを用いた冠血管内皮機能評価方法の確立に関する研究	吉永恵一郎	核医学分野	1,700千円	補 委 文部科学省
骨髄間質細胞による神経再生の臨床応用を目的としたトランスレーショナル研究	岩崎 喜信	神経外科	7,150千円	補 文部科学省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己骨髄間質細胞による神経再生メカニズムの包括的治療戦略	黒田 敏	神経外科	6,240千円	補	文部科学省
バイオイメージングを用いた骨髄間質細胞による神経再生の研究	飛驒 一利	神経外科	1,560千円	補	文部科学省
ヒト骨髄間質細胞を用いた中枢神経再生、臨床応用にむけた新たなテクノロジーの研究	七戸 秀夫	神経外科	6,480千円	補	文部科学省
脳微小血管内皮細胞の内在的脆弱性に関わる酸化ストレス亢進メカニズムの解明	鏡谷 武雄	神経外科	3,700千円	補	文部科学省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biomed. Mater. Eng. 19(2):133-140, 2009	fabrification of porous chitosan/hydroxyapatite nanocompsites: their mechanical and biological properties	柏崎 晴彦	高齢者歯科
Journal of Prosthodontic Research	In flueu of motion and posture of the head on data obtained using the newly developed ultraminiature cordless braxism measurement system	三上 紗季	高次口腔医療センター
顎口腔機能学会雑誌	超小型コードレス筋電図計測システムの夜間睡眠時咬筋筋肝集う測定への応用	三上 紗季	高次口腔医療センター
The International Journal of Dental Technology	リアルな感触を追求した耳介エビテーゼの制作ーポリウレタン樹脂を用いた生体に近い感触と動きの再現ー	西川 圭吾	生体技工部
日本口腔顎顔面技工研究会会誌	より生体に近い感触を持つ耳介エビテーゼの試作	西川 圭吾	生体技工部
Stomatologija	Papilla preservation technipue combined with Emdogain in the tratment of treatment of intrabony defects:a novel treatment regimen for chronic periodontitis	Miliauskaite A, Selimovic D, Hassan M, Nagano F, Soell M, sano	第1保存科
Dent Mater	effects of self-etching resin coating system to prevent demineralization of root surfaces	kaneshiro AV, Imazato S, Ebisu S, Tanaka Y, sano H	第1保存科
Biomed Mater Eng	Improved bond perfomance of a dental adhesive system using nano-technology	Nagano F, Selimovic D, Noda M, Ikeda T, Tanaka T, Miyamoto	第1保存科
Biol. Blood Marrow Transplant.	Excellent outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation using a conditioning regimen with medium-dose VP-16, cyclophosphamide and total body irradiation for adult patients with acute lymphoblastoc leukemia.	Shigematsu A, et al.	血液内科
Biol. Blood Marrow Transplant.	A retrospective analysis of allogeneic hematopoietic stem cell transp lantation for adlut T cell leukemia/lymphoma (ATL): clinical impact of graft-versus-leukemia/lymphoma effect.	Shiratori S, et al.	血液内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leuk. Lymphoma	T cell excision circle levels in CD94-expressing CD8 T cells during graft-versus-host disease.	Sugita J, et al	血液内科
Ann. Hematol.	Influence of conditioning regimens and stem cell sources on donor-type chimerism early after stem cell transplantation.	Sugita J, et al.	血液内科
Int. J. Hematol.	Reduced-intensity unrelated donor bone marrow transplantation for hematologic malignancies.	Kim SW, et al.	血液内科
J Cell Biochem	Adipose triglyceride lipase regulates basal lipolysis and lipid droplet size in adipocytes	三好秀明	第二内科
Bone Marrow Transplant	Discrepancy between disease activity and levels of vascular endothelial growth factor in a patient with POEMS syndrome successfully treated with autologous stem-cell transplantation	後藤秀樹	第二内科
Semin Thromb Hemost.	Antiprothrombin antibody testing: detection and clinical utility	奥健志	第二内科
Rheumatology	Clinical features of haemophagocytic syndrome in patients with systemic autoimmune diseases: analysis of 30 cases.	深谷進司	第二内科
Int J Cardiol	Reversible cardiomyopathy due to secondary hemochromatosis with multitransfusions for severe aplastic anemia after successful non-myeloablative stem cell transplantation.	西尾充史	第二内科
Hum Mol Genet	Cyst formation and activation of the extracellular regulated kinase pathway after kidney specific inactivation of Pkd1.	柴崎跡也	第二内科
Biochim Biophys Acta	Involvement of Ymer in suppression of NF-kappaB activation by regulated interaction with lysine-63-linked polyubiquitin chain.	坊垣幸	第二内科

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arthritis Rheum	Exchange of information in Rheumatology between East and West : From Man'yo-shu to the Future	渥美達也	第二内科
Clin Exp Rheumatol	Thrombotic microangiopathy in patients with phosphatidylserine dependent antiprothrombin antibodies and antiphospholipid syndrome	近祐次郎	第二内科
J Atheroscler Thromb	The potential role of macrophage migration inhibitory factor on the migration of vascular smooth muscle cells	岡本敏哉	第二内科
Autoimmun Rev	Autoimmune disease after autologous hematopoietic stem cell transplantation	坊垣暁之	第二内科
Mod Rheumatol	Polymyalgia rheumatica as the manifestation of unclassified aortitis.	片岡浩	第二内科
J Neurol	Downbeat positioning nystagmus is a common clinical feature despite variable phenotypes in an FHM1 family	Yabe I	神経内科
Mult Scler	Correlation between DJ-1 levels in the cerebrospinal fluid and the progression of disabilities in multiple sclerosis patients	Hirofumi M	神経内科
Mov Disord	Association between multiple system atrophy and polymorphisms of <i>SLC1A4</i> , <i>SQSTM1</i> , and <i>EIF4EBP1</i> genes	Soma H	神経内科
Neurol Asia	Painful symptoms and quality of life in multiple sclerosis	Niino M	神経内科
Neurosci Lett	Cystatin C in cerebrospinal fluid as a biomarker of ALS	Tsuji-Akimoto S	神経内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med	Chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy after treatment with interferon- α	Hirofumi M	神経内科
臨床神経学	甲状腺機能正常な“橋本病”にともなう進行性小脳性運動失調症の臨床的検討～小脳性運動失調における橋本病の自己抗体の関わりについて～	矢部 一郎	神経内科
	Intraoperative simulation device using negative pressure for construction of framework in microtia reconstruction	小山 明彦	形成外科
	Double innervation occurs in the facial mimetic muscles after facial-hypoglossal end-to-side neural repair: rat model for neural supercharge concept	古川 洋志	形成外科
	Sebaceous carcinoma of the eyelids: a review of 21 cases	齋藤 亮	形成外科
	Simvastatin inhibits growth via apoptosis and the induction of cell cycle arrest in human melanoma cells	齋藤 亮	形成外科
BJU Int	Pathological characteristics and clinical course of bladder tumour developing after nephroureterectomy.	安部 崇重	北海道大学 腎泌尿器外科
J Urol	Long-Term Outcome of Vaginoplasty With the Bilateral Labioscrotal Flap	守屋 仁彦	北海道大学 腎泌尿器外科
J Urol	Abnormal Dimercapto-Succinic Acid Scan is a Predictive Factor of Breakthrough Urinary Tract Infection in Children With Primary Vesicoureteral Reflux.	中村 美智子	北海道大学 腎泌尿器外科
Jpn J Clin Onco	Multicenter Phase II Trial of Combination Therapy with Meloxicam, a COX-2 Inhibitor, and Natural Interferon- α for Metastatic Renal Cell Carcinoma.	篠原 信雄	北海道大学 腎泌尿器外科

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Transpl Immuno	High renal ischemia temperature increases neutrophil chemoattractant production and tissue injury during reperfusion without an identifiable role for CD4 T cells in the injury.	福澤 信之	北海道大学 腎泌尿器外科
Clin Transplant	Clinicopathologic evaluation of short-term outcome after early corticosteroid discontinuation in kidney transplantation.	三浦 正義	北海道大学 腎泌尿器外科
Int J Urol	Alternative approach in the treatment of adrenal metastasis with a real-time tracking radiotherapy in patients with hormone refractory prostate cancer.	佐澤 陽	北海道大学 腎泌尿器外科
Eur J Pediatr Surg	Laparoscopy-assisted Surgery for Lobulated Abdominoscrotal Hydrocele: a Case Report.	松本 隆児	北海道大学 腎泌尿器外科 (現 帯広厚生病院)
Int J Urol	Lower urinary tract symptoms and their impact on quality of life after successful renal transplantation.	三井 貴彦	北海道大学 腎泌尿器外科
Int J Urol	Role of lymph node density in predicting survival of patients with lymph node metastases after radical cystectomy: a multi-institutional study.	大澤 崇宏	北海道大学 腎泌尿器外科
Int J Radiat Oncol Biol Phys 70, 931-934, 2008	Three-dimensional intrafractional motion of breast during tangential breast irradiation monitored with high-sampling frequency using a real-time tumor-tracking radiotherapy system.	Kinoshita R, et al	大学病院、医員
Int J Radiat Oncol Biol Phys	Clinical Outcomes of Stereotactic Body Radiotherapy for Small Lung Lesions Clinically Diagnosed as Primary Lung Cancer on Radiologic Examination	Inoue T, et al	大学病院、医員
Jpn J Clin Oncol	Low-dose craniospinal irradiation and Ifosfamide, cisplatin and etoposide for non-metastatic embryonal tumors in the central nervous system.	Yasuda K, et al	大学病院、医員

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Pediatr Surg	Usefulness of axial planes of helical computed tomography for diagnosis of pancreaticobiliary maljunction in early infants with negative findings on magnetic resonance cholangiopancreatography.	岡田忠雄	小児外科
Pediatr Int	Management and Outcome in Prenatally Diagnosed Sacrococcygeal Teratomas.	岡田忠雄	小児外科
Turkish J Pediatr	CD56-immunostaining of the extrahepatic biliary tree as an indicator of clinical outcome in biliary atresia: a preliminary report.	岡田忠雄	小児外科
北海道歯学誌	胚性腫細胞株P19EC細胞の静脈麻酔薬による細胞死に関する研究	今渡 隆成	歯科麻酔科
日本歯科麻酔誌	Freeman-Sheldon症候群を有する患者の口蓋形成術に対する全身麻酔管理経験	渋谷真希子	歯科麻酔科
日本歯科麻酔誌	頸部郭清中に迷走神経が切断されたペースメーカー植込み患者の1例	木村 邦衛	歯科麻酔科
日本歯科麻酔誌	絶飲食時の低血糖対策を要したインスリン持続皮下注入療法施行1型糖尿病患者の全身麻酔経験	本間 将一	歯科麻酔科
歯科材料・器械	4-META/MMA-TBBレジンと骨との接着の長期安定性	中塚 愛	第二保存科
日歯保存誌	根尖切除術における切除面の封鎖法の違いが実験的根尖性歯周炎の長期的治癒に及ぼす影響	大谷 香織	第二保存科
日歯保存誌	コラーゲンハイドロゲル-スポンジ複合体のスキュルホールドとしての有効性とBMP併用による骨増生	得永 佳介	第二保存科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日歯保存誌	半月状歯肉弁歯冠側移動術後治癒の組織学的評価	半田 良平	第二保存科
J Periodontol	Bone perforation and placement of collagen sponge facilitate bone augmentation	下地 伸司	第二保存科
Prenat Diag 2008; 28:1072-4	Ileal atresia after fetoscopic laser photocoagulation for twin-to-twin transfusion syndrome—a case report	Morikawa M	北海道大学病院産科
J Reprod Immunol 2009; 179: 188-95	Antiphospholipid antibodies increase the risk of pregnancy-induced hypertension and adverse pregnancy outcomes	Yamada H	北海道大学病院産科
Mol Hum Reprod 2009; 15: 121-30	Proinflammatory cytokine polymorphisms and the risk of preterm birth and low birth weight in a Japanese population	Yamada H	北海道大学病院産科
J Perinat Med 2008; 36: 419-24	Pregnancy outcome of women who developed proteinuria in the absence of hypertension after mid-gestation	Morikawa M	北海道大学病院産科
J Obstet Gynaecol Res 2008; 34: 121-4	Complete hydatidiform mole with coexisting dichorionic diamniotic twins following testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperm injection	Yamada T	北海道大学病院産科
Prenat Diag 2009; 29: 715-7	Platyspondylic lethal skeletal dysplasia San Diego type (thanatophoric dysplasia type 1) associated with trisomy 21 presenting with nuchal translucency: a case report	Yamada T	北海道大学病院産科
Pediatr Int 2008; 50: 576-80	Management and outcome in prenatally diagnosed sacrococcygeal teratomas	Okada T	北海道大学病院産科
医療薬学(2008) 第34巻第5号 419-425 頁	処方オーダーリングシステムおよびTDMオーダーリングシステムと連動した抗MRSA薬使用届け出システムは適正使用を推進する	山田武宏	薬剤部

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

社

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医療薬学(2009) 第35巻第3号 213-218頁	多発性骨髄腫における同種造血幹細胞移植後の慢性消化管GVHDに対しベクロメタゾン腸溶性製剤を投与した症例	久保田康生	薬剤部
眼科	【日常臨床での点眼薬の特徴とコツ】非ステロイド性消炎薬	田川義継	眼科
神経眼科	臨床と研究の接点 3次元空間での追跡眼球運動における小脳背側虫部の関わり	新田卓也	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 HLA-B27関連ぶどう膜炎	南場研一	眼科
あたらしい眼科	【ぶどう膜炎検査の正しい使い方】髄液検査	北市伸義	眼科
あたらしい眼科	【ぶどう膜炎検査の正しい使い方】ヒト白血球抗原(HLA)	南場研一	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 Vogt-小柳-原田病	北市伸義	眼科
臨床眼科	【網膜硝子体診療update】注目の疾患 その他 Acute zonal occult outer retinopathyの診断と病態	齋藤航	眼科
眼科プラクティス	【眼科薬物治療A to Z】疾患別治療戦略と処方の実際 ぶどう膜炎 小柳-原田病・交感性眼炎	北市伸義	眼科
眼科プラクティス	【眼科薬物治療A to Z】疾患別治療戦略と処方の実際 結膜・角膜疾患 クラミジア結膜炎	田川義継	眼科

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

社

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科プラクティス	【眼科薬物治療A to Z】疾患別治療戦略と処方の実際 結膜・角膜疾患 新生児眼炎	田川義継	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 多発消失性白点症候群	齋藤理幸	眼科
日本の眼科	Vogt-小柳-原田病とスギウラ・サイン	北市伸義	眼科
臨床眼科	白内障手術後に生じた術後壊死性強膜炎の2例	宮本陽子	眼科
臨床眼科	ヘルペス虹彩毛様体炎	北市伸義	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 HTLV-1関連ぶどう膜炎	北市伸義	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 バルトネラ感染症(ネコひっかき病)	有賀俊英	眼科
アレルギーの臨床	【効果的なヒスタミンH1拮抗薬の使い方】眼科領域	北市伸義	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 交感性眼炎	北市伸義	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 サルコイドーシス	北市伸義	眼科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Exp Eye Res	Macrophage migration inhibitory factor ameliorates UV-induced photokeratitis in mice.	Kitaichi Nobuyoshi	眼科
Acta Ophthalmol	Intravitreal anti-vascular endothelial growth factor therapy with bevacizumab for tuberous sclerosis with macular oedema.	Saito Wataru	眼科
Arch Ophthalmol	Block suture for trabeculectomy using only 2 anchors.	Chin Shinkii	眼科
Acta Ophthalmol	Elevated choroidal blood flow velocity during systemic corticosteroid therapy in Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Hirose Shigeki	眼科
Br J Ophthalmol	Sister cases of Behcet's disease and Vogt-Koyanagi-Harada disease	Horie Yukihiro	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	Transgenic mice generating group, Ono E. Microphthalmia and lack of vitreous body in transgenic mice expressing the first immunoglobulin-like domain of nectin-1	Yoshida Kazuhiko	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	Anti-inflammatory effect of angiotensin type 1 receptor antagonist on endotoxin-induced uveitis in rats	Miyazaki Akiko	眼科
American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics	Growth and development of the cranial base in mice that spontaneously develop anterior transverse crossbite	梶井 貴史	矯正科
Hokkaido Journal of Dental Science	Relationship between lip sealing ability and dentofacial morphology	佐藤 嘉晃	矯正科
日本口蓋裂学会雑誌	地理的観点から分析した北海道大学病院矯正歯科における口唇裂・口蓋裂患者の統計学的特徴	梶井 貴史	矯正科

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口蓋裂学会雑誌	北海道大学病院矯正歯科における口唇裂・口蓋裂患者の臨床統計的調査—1997年から2006年の10年間—	梶井 貴史	矯正科
北海道歯学雑誌	口輪筋訓練の条件に関する検討—近赤外線分光法を用いた口輪筋酸素化動態の観察—	金子 知生	矯正科
北海道矯正歯科学会誌	アルジネート印象材用消毒液の寸法精度への影響	山本 隆昭	矯正科
北海道矯正歯科学会誌	歯周病を伴う上顎前突症—装置撤去後8年経過例—	佐藤 嘉晃	矯正科
ORTHODONTIC WAVES	Differences in dento-facial morphology in lip competence and lip incompetence	佐藤 嘉晃	矯正科
MOLECULAR MEDICINE REPORTS	Mechanical stress up-regulates RANKL expression via the VEGF autocrine pathway in osteoblastic MC3T3-EL cells	飯田 順一郎	矯正科
J Rehabil Med.	Inhibition of the unaffected motor cortex by 1 Hz repetitive transcranial magnetic stimulation enhances motor performance and training effect of the paretic hand in patients with chronic stroke.	竹内直行	リハビリテーション科
Chang Gung Med J. 2009 Mar-Apr;32(2):133-9	Revascularization in the tendon graft following anterior cruciate ligament reconstruction of the knee: its mechanisms and regulation.	遠山晴一	リハビリテーション部
Gene Ther. 2008 Dec;15(23):1513-22.	A novel DNA vaccine-targeting macrophage migration inhibitory factor improves the survival of mice with sepsis.	遠山晴一	リハビリテーション部
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌	嚥下音画像化の試み—嚥下障害患者への臨床応用の可能性—	浦上祐司	リハビリテーション科

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

社

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Respiratory Research	Bronchiolar chemokine expression is different after single versus repeated cigarette smoke exposure	Betsuyaku Tomoko	第一内科
Endocrinology	Knockdown of macrophage migration inhibitory factor disrupts adipogenesis in 3T3-L1 cells	Ikeda Daisuke	第一内科
Cancer Immunity	Prolonged survival of patients with lung adenocarcinoma expressing XAGE-1b and HLA class I antigens	Kikuchi Eiki	第一内科
Respirology	Pharmacokinetics of clarithromycin in bronchial epithelial lining fluid	Kikuchi Eiki	第一内科
British Journal of Cancer	Simultaneous blockade of AP-1 and phosphatidylinositol 3-kinase pathway in non-small cell lung cancer cells	Kikuchi Junko	第一内科
Antioxidants & Redox Signaling	Dual oxidase 1 and 2 expression in airway epithelium of smokers and patients with mild/moderate chronic obstructive pulmonary disease	Nagai Katsura	第一内科
Free Radical Research	Diversity of protein carbonylation in allergic airway inflammation	Nagai Katsura	第一内科
European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging	Myocardial imaging with 18F-fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography and magnetic resonance imaging in sarcoidosis	Ohira Hiroshi	第一内科
Journal of Immunotherapy	Surmounting tumor-induced immune suppression by frequent vaccination or immunization in the absence of B cells	Oizumi Satoshi	第一内科
Current Therapeutic Research	Effects of replacing metformin with pioglitazone on glycemic control in Japanese patients with poorly controlled type 2 diabetes mellitus : A 12-week, Open-label, prospective study	Sakaue Shinji	第一内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Immunology, Immunotherapy	Immunotherapy with dendritic cells pulsed with tumor-derived gp96 against murine lung cancer is effective through immune response of CD8(+) cytotoxic T lymphocytes and natural killer cells	Shinagawa Naofumi	第一内科
Inhalation Toxicology	Decreased airway expression of vascular endothelial growth factor in cigarette smoke-induced emphysema in mice and COPD patients	Suzuki Masaru	第一内科
American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology	Down-Regulated NF-E2-Related factor 2 in pulmonary macrophages of aged smokers and patients with chronic obstructive pulmonary disease	Suzuki Masaru	第一内科
Mol Psychiatry	Aberrant DNA methylation associated with bipolar disorder identified from discordant monozygotic twins	Kuratomi G	精神医学講座
Eur. J. Pharmacol	Effect of co-administration of the selective 5-HT1A receptor antagonist WAY 100,635 and selective 5-HT1B/1D receptor antagonist GR 127,935 on anxiolytic effect of citalopram in conditioned fear stress in the rat.	Muraki I	精神医学講座
Eur. J. Pharmacol	Effect of co-administration of a serotonin-noradrenaline reuptake inhibitor and a dopamine agonist on extracellular monoamine concentrations in rats.	Kitaichi Y	精神医学講座
Pharmacol. Biochem. Behav.	Changes in amygdala neural activity that occur with the extinction of context-dependent conditioned fear stress.	Izumi T	薬理学講座
Neuro. Endocrinol. Lett.	Depressive patients are more impulsive and inconsistent in intertemporal choice behavior for monetary gain and loss than healthy subjects--an analysis based on Tsallis' statistics.	Takahashi T	精神医学講座
Psychiatry and Clinical Neurosciences	Effect of different challenge doses after repeated citalopram treatment on extracellular serotonin level in the medial prefrontal cortex: In vivo microdialysis study.	Muraki I	精神医学講座
Psychiatry and Clinical Neurosciences	Pharmacokinetic interaction between tandospirone and fluvoxamine in the rat contextual conditioned fear stress model and its functional consequence: Involvement of cytochrome P450 3A4.	Nishikawa H	精神医学講座

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Prog. Neuropsychopharmacol/Biol. Psychiatry,	Effects of acute citalopram on the expression of conditioned freezing in naive versus chronic citalopram-treated rats.	Hashimoto S	精神医学講座
Seishin Shinkeigaku Zasshi	Present status of women psychiatrists in Japan—Questionnaire survey for psychiatrists with 12-year postgraduate experience	Kikuchi S	精神医学講座
Int J Ment Health Syst	Pathway to psychiatric care in Japan: A multicenter observational study	Fujisawa D	精神医学講座
Neuropsychopharmacology.	Glucocorticoids and lithium reciprocally regulate the proliferation of adult dentate gyrus-derived neural precursor cells through GSK-3 β and β -catenin/TCF pathway	Boku S	精神医学講座
Biomed Mater Eng	Adhesion of humanosteoblast-like cells (Saos-2) to carbon nanotube sheets	Yokoyama A	咬合系歯科
Biomed Mater Eng	Low-voltage and high-voltage TEM observations on MWCNTs of rat in vivo	Yokoyama A	咬合系歯科
J R Soc Interface	Material nanosizing effect on living organisms: non-specific, biointeractive, physical size effects	Yokoyama A	咬合系歯科
J Biomed Mater Res B Appl Biomater	Development of 3D collagen scaffold coated with multiwalled carbon nanotubes	Hirata E	咬合系歯科
J Electron Microsc (Tokyo)	High-resolution electron microscopy of multi-wall carbon nanotubes in the subcutaneous tissue of rats	Yokoyama A	咬合系歯科
J Prosthodont Res	Finite element model based on a mandibular cast and a waxed denture; Evaluation of the accuracy and the reproducibility of analysis	Takayama Y	咬合系歯科

社

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Obstet Gynaecol Res 34(4):552-556	Treatment of cervical cancer with adjuvant chemotherapy versus adjuvant radiotherapy after radical hysterectomy and systematic lymphadenectomy	櫻木 範明	婦人科
ウイルス感染症セミナー 10:5-8	メンブレンアレイシステムを用いた子宮頸部細胞診検体および浸潤癌組織検体からのHPV検出.	櫻木 範明	婦人科
日本産科婦人科内視鏡 学会雑誌 24(1):204-208	粘膜下筋腫に対する全腹腔鏡下筋腫核出術の経験.	櫻木 範明	婦人科
Eur J Gynaecol Oncol 29(6):573-577	Weekly paclitaxel/5-fluorouracil followed by platinum retreatment for patients with recurrent ovarian cancer.	櫻木 範明	婦人科
Anticancer Res28(2A):865-871	Imup-1 and imup-2 overexpression in endometrial carcinoma in Korean and Japanese populations.	櫻木 範明	婦人科
エンドメトリオーシス研究 会誌 28:146-152	子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術の際に認められた虫垂子宮内膜症の5例	櫻木 範明	婦人科
Arch Gynecol Obstet 278(6):579-583	A case of primary serous papillary carcinoma with unusual clinical presentation: distant lymph nodes metastasis without peritoneal dissemination.	櫻木 範明	婦人科
J Obstet Gynaecol Res 34(1):121-124	Complete hydatidiform mole with coexisting dichorionic diamniotic twins following testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperm injection.	櫻木 範明	婦人科
産婦人科の実際 57:1726-1733	手術療法の問題点,子宮頸癌の手術. 特集「婦人科がん診療のリスクマネジメント」	櫻木 範明	婦人科
第6回婦人科悪性腫瘍化 学療法研究機構年次会 議記録集 65-68	オープンディスカッション, 子宮頸がん委員会-新規臨床試験仮称JGOG1067(I-II期の根治手術後のハイリスク症例を対象とする術後補助化学療法の有用性phase II)が可能なか?-[子宮頸がんの術後化学療法の成績].	櫻木 範明	婦人科

(注)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Mater Sci-Mater M.	Biological responses of novel high-toughness double network hydrogels in muscle and the subcutaneous tissues	田邊 芳恵	北海道大学大学院医学研究科
Gene	Gene expression profile of rabbit cartilage by expressed sequence tag analysis	權 赫準	北海道大学大学院医学研究科
J Biomed Mater Res: Part A	Tuning of cell proliferation on tough gels by critical charge effect	陳 咏梅	北海道大学大学院理学研究院
J Biomech	Local administration of interleukin-1 receptor antagonist inhibits deterioration of mechanical properties of the stress-shielded patellar tendon	宮武 慎	北海道大学大学院医学研究科
J Bone Joint Surg	In vivo local administration of osteogenic protein-1 increases structural properties of the overstretched anterior cruciate ligament with partial midsubstance laceration. A biomechanical study	林 陸	北海道大学大学院医学研究科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.	Ex vivo supplementation of TGF- β 1 enhances the fibrous tissue regeneration effect of synovium-derived fibroblast transplantation in a tendon defect: a biomechanical study	岡本 昌市	北海道大学大学院医学研究科
Vaccine	Active immunization against macrophage migration inhibitory factor using a novel DNA vaccine prevents ovariectomy-induced bone loss in mice	小野寺 伸	北海道大学大学院医学研究科
Gene Ther	A novel DNA vaccine-targeting macrophage migration inhibitory factor improves the survival of mice with sepsis	遠山 節子	北海道大学大学院医学研究科
Arthroscopy	An in vivo biomechanical study on the tension-versus-knee flexion angle curves of two grafts in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction: Effects of initial tension and internal tibial rotation.	安田 和則	北海道大学大学院医学研究科
Am J Sports Med	Prospective clinical comparisons of anatomic double-bundle versus single-bundle anterior cruciate ligament reconstruction procedures in 328 consecutive patients	近藤 英司	北海道大学大学院医学研究科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	Clinical results of Posterior cruciate Ligament retaining TKA with alumina ceramic condular prosthesis: Comparison to Co-Cr alloy prosthesis	眞島 任史	北海道大学大学院医学研究科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.	Simultaneous anterior and posterior cruciate ligament reconstruction in chronic knee instabilities: surgical concepts and clinical outcome.	林 陸	北海道大学大学院医学研究科
J Orthop Sci	Impact of patellofemoral osteoarthritis on long-term outcome of high tibial osteotomy and effects of ventralization of tibial tubercle	眞島 任史	北海道大学大学院医学研究科
Macromol Biosci	A novel double-network hydrogel induces spontaneous articular cartilage regeneration in vivo in a large osteochondral defect.	安田 和則	北海道大学大学院医学研究科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	A Soluble factor (EMMPRIN) in exudate influences knee motion after total arthroplasty	小野寺 純	北海道大学大学院医学研究科
Brit J Clin Pharmacol	Randomized clinical comparisons of diclofenac concentration in the soft tissues and the blood plasma between topical and oral applications	宮武 慎	北海道大学大学院医学研究科
Journal of Biomaterials Science: Polymer Edition	In vivo biological responses and bioresorption of tilapia scale collagen as a potential biomaterial	杉浦 弘明	北海道大学大学院医学研究科
Acta Neuropathol	Deletion of macrophage migration inhibitory factor attenuates neuronal death and promotes functional recovery after compression-induced spinal cord injury in mice	西尾 豊	医療法人社団景翠会 金沢病院 整形外科
J Biomech	The effect on patellofemoral joint stability of selective cutting of lateral retinacular and capsular structures	Merican AM	Imperial College of science, technology and medicine
DENTAL DIAMOND 夏季増刊号	悪性腫瘍や悪性疾患の見逃し。「臨床のアクシデント・ピットフォール その対処と予防法」	北川 善政	口腔診断内科学教室

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

社

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔外科学会誌	下顎骨髄炎から継発した咬筋の瘢痕拘縮により長期に重度開口障害をきたした1例	寺田 典子	口腔診断内科学教室
日本口腔腫瘍学会	歯科口腔外科における口腔癌術後の摂食・嚥下障害への対応—アンケート調査から—	山崎 裕 (second)	口腔診断内科学教室
THE JOURNAL OF DENTAL ENGINEERING	コラーゲン上に多層カーボンナノチューブをコートした細胞培養担体の開発	寺田 典子	口腔診断内科学教室
ONCOLOGY REPORTS	Expression of E1AF, an ets-oncogene transcription factor, highly correlates with malignant phenotype of malignant melanoma through up-regulation of the membrane-type-1 matrix metalloproteinase gene	Hironobu Hata	口腔診断内科学教室
INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR	Mechanical stress directly suppresses osteoclast differentiation in RAW264.7 cells	Nobumitsu Suzuki	口腔診断内科学教室
Ann Nucl Med	Assessment of cervical lymph node metastases using FDG-PET in patients with head and neck cancer	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室
GASTROENTEROLOGY	Rikkunshito, a Herbal Medicine, Suppresses Cisplatin-Induced Anorexia in Rats Via 5-HT 2 Receptor Antagonism	Kouichi Nagai (sixth)	口腔診断内科学教室
The Open Dentistry Journal	Carbonyl Reductase 3 (CBR3) Mediates 9-cis-Retinoic Acid-Induced Cytostasis and is a Potential Prognostic Marker for Oral Malignancy	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室
歯科基礎医学会雑誌	Suppression of SPRR1B gene in oral squamous cell carcinoma; the cell biological significance in the development of oral malignancy	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室
Cancer Letters	Presence of dominant negative mutation of TP53 is a risk of early recurrence in oral cancer	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Odontology	Gene expression profile changes correlated with lymph node metastasis in oral squamous cell carcinoma	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室
Odontology	Serum p53 antibodies as a prognostic indicator in oral squamous cell carcinoma	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室
MOLECULAR CARCINOGENESIS	Gene Expression Signatures That Classify the Mode of Invasion of Primary Oral Squamous Cell Carcinomas	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室
Int. J. Oral Maxillofac. Surg	Large ameloblastoma of the mandible with hypoproteinemia	Hironobu Hata	口腔診断内科学教室
Clin Nucl Med	Cervical toxoplasmic lymphadenitis. can mimic malignant lymphoma on FDG PET.	Yutaka Yamazaki	口腔診断内科学教室
J Raman spectrosc	Phosphate and amide III mapping in sialoloths with Raman microspectroscopy.	Yoshimasa Kitagawa	口腔診断内科学教室
Asian J Oral Maxillofac surg	Thrombocytopenia associated with loxoprofen sodium: a case report.	Jun Sato	口腔診断内科学教室
Dentomaxillofac Radiol	Vacuum phenomenon in non-open fracture of the mandibular condyle: report of three cases.	Takeshi Kuroshima	口腔診断内科学教室
Int J Oral Maxillofac Surg	Large ameloblastoma of the mandible with hypoproteinemia.	Hironobu Hata	口腔診断内科学教室
Oncol Rep	Expression of E1AF, an ets-oncogene transcription factor, highly correlates with malignant phenotype of malignant melanoma through up-regulation of the membrane-type-1 matrix metalloproteinase gene.	Hironobu Hata	口腔診断内科学教室

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名			題名	発表者氏名	所属部門
ORAL ONCOLOGY volume-12			Changes in interleukin-6 levels in saliva in patients with oral squamous cell carcinoma during the treatment phase.	Jun Sato	口腔診断内科学教室
ORAL ONCOLOGY volume-12			Preoperative lymph node staging of oral cancer with FDG-PET.	Yoshimasa Kitagawa	口腔診断内科学教室
J Surg Res	146	32-42	Prognostic Values of Matrix Metalloproteinase Family Expression in Human Colorectal Carcinom	近藤 哲	第二外科
J Surg Res	146	104-109	High MMP-1 mRNA Expression is a Risk Factor for Disease-Free and Overall Survivals in Patients with Invasive Breast Carcinoma	近藤 哲	第二外科
Ann Thorac Surg	86	312-313	Brain Metastases Secondary to Tumor Emboli From Primary Lung Cancer During Lobectomy	樋田泰浩	第二外科
Surg Today	38	174-177	Neoadjuvant Imatinib in a Gastrointestinal Stromal Tumor of the Rectum	近藤 哲	第二外科
Cancer	113	530-541	Up-regulation of CD40 with juxtacrine activity in human nonsmall lung cancer cells correlates with poor prognosis	宮本正樹	第二外科
Clin Cancer Res	14	2363-23	Activation of Placenta-Specific Transcription Factor Distal-less Homeobox 5 Predicts Clinical Outcome in Primary Lung Cancer Patients	近藤 哲	第二外科
J Hepatobiliary	15	41-54	Guidelines for the management of biliary tract and ampullary carcinomas: surgical treatment	近藤 哲	第二外科
Int J Cancer	122	823-831	Deregulation of beta-catenin signal by Helicobacter pylori CagA requires the CagA-multimerization sequence	近藤 哲	第二外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名		題名	発表者氏名	所属部門
Gen Thorac Cardiovas Oncogene	56 566-569	Large-cell neuroendocrine carcinoma in the thymus	近藤 哲	第二外科
	27 3508-3515	Isolation of a distinct class of gain-of-function SHP-2 mutants with oncogenic RAS-like transforming activity from solid tumors	宮本正樹	第二外科
Ann Diagn Pathol	12 249-251	Lymphoglandular bodies in malignant tumors: with special reference to histologic specimens	近藤 哲	第二外科
Hum pathol	39 1153-1161	Expression of cell cycle-related molecules in biliary premalignant lesions: biliary intraepithelial neoplasia and biliary intraductal papillary neoplasm	近藤 哲	第二外科
Mod pathol	21 807-816	Extrahepatic bile duct carcinoma with extensive intraepithelial spread: A clinicopathological study of 21 cases	近藤 哲	第二外科
Br J Surg	95 92-96	Computed tomography evaluation of regional lymph node metastases in patients with biliary cancer	近藤 哲	第二外科
Surg Today	38 206-213	Video-Assisted Esophagectomy for Esophageal Cancer	七戸俊明	第二外科
Surg Endosc	22 2509-2513	Laparoscopic pancreaticoduodenectomy is effective in a porcine model	平野 聡	第二外科
Surgery	144 39-48	Real-time intraoperative assessment of the extrahepatic bile ducts in rats and pigs using invisible near-infrared fluorescent light	田中栄一	第二外科
Br J Cancer	98 1258-1263	Infiltrating regulatory T cell number is not a factor to predict patient's survival in oesophageal squamous cell carcinoma.	宮本正樹	第二外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Clin Gastroenterol	A New Procedure for 16 Consecutive Days Monitoring of Intra-gastric pH.	小野尚子	光学医療診療部
Gastrointest Endosc	Characteristics of magnified endoscopic images of gastric extranodal marginal zone B-cell lymphoma of the mucosa-associated lymphoid tissue, including changes after treatment	小野尚子	光学医療診療部
Lancet	Effect of eradication of Helicobacter pylori on incidence of metachronous gastric carcinoma after endoscopic resection of early gastric cancer: an open-label, randomised controlled trial	加藤元嗣	光学医療診療部
Int J Radiat Oncol Biol Phys, 70;382-384,2008	Histopathologic consideration of fiducial gold markers inserted for real-time tumor-tracking radiotherapy against lung cancer.	Imura M, Kubota K, Itoh T, et al.	病理部
BJU Int, 102;576-580,2008	The role of lymph-node dissection in the treatment of upper urinary tract cancer:a multi-institutional study.	Abe T, Kubota K, Matsuno Y, et al.	病理部
Mod Pathol, 21;807-816,2008	Extrahepatic bile duct carcinoma with extensive intraepithelial spread:a clinicopathological study of 21 case.	Nakanishi Y, Kubota K, Itoh T, et al.	病理部
Gastrointest Endosc, 68; 624-631,2008	Characteristics of magnified endoscopic images of gastric extranodal marginal zone B-cell lymphoma of the mucosa-associated lymphoid tissue,including changes after treatment.	Ono S, Itoh T, Kubota K, et al.	病理部
Int J Urol, 16(3);274-278,2009	Role of lymph node density in predicting survival of patients with lymph node metastases after radical cystectomy:A multi-institutional study.	Osawa T, Kubota K, Matsuno Y, et al.	病理部
Pathol Int. 58(10);668-671,2008	EBV-associated diffuse large B-cell lymphoma arising in the chest wall with surgical mesh implant.	Fujimoto M, Haga H, et al.	病理部
Diagn Cytopathol, 36(11);840-842,2008	Pancreatic Metastasis from Small Cell Carcinoma of the Uterine Cervix Demonstrated by Endoscopic Ultrasonography-Guided Fine Needle Aspiration.	Kuwatani M, Matsuno Y, et al.	病理部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuropathology, 28(6);640-644,2008	CNS lymphomatoid granulomatosis with lymph node and bone marrow involvements.	Takiyama A, Itoh T, et al.	病理部
Europ J Radiol Extra, 671; No. of Pages4	Intra-articular nodular fasciitis in the elbow joint, with an emphasis on MR imaging findings.	Nishioka N, Kubota K, Itoh T, et al.	病理部
Carcinogenesis, 29(5);957-963,2008	Association of KRAS polymorphisms with risk for lung adenocarcinoma accompanied by atypical adenomatous hyperplasias.	Kohno T, Matsuno Y, et al.	病理部
Nat Genet, 40(6);730-740,2008	Genetic variation in PSCA is associated with susceptibility to diffuse-type gastric cancer.	Study Group of Millennium Genome Project for Cancer	病理部
Clin Cancer Res, 14(12);3746-3753,2008	Association of p16 homozygous deletions with clinicopathologic characteristics and EGFR/KRAS/p53 mutations in lung adenocarcinoma.	Iwakawa R, Matsuno Y, et al.	病理部
J Thorac Oncol, 3(7);698-703,2008	Histological evaluation of the effect of smoking on peripheral small adenocarcinomas of the lung.	Maeshima AM, Matsuno Y, et al.	病理部
Jpn J Clin Oncol, 38(8);547-552,2008	Follicular lymphoma of the duodenum: a clinicopathologic analysis of 26 cases.	Sentani K, Matsuno Y, et al.	病理部
Cancer Sci, 99(9);1760-1768,2008	Diffuse large B-cell lymphoma after transformation from low-grade follicular lymphoma: morphological, immunohistochemical, and FISH analyses.	Maeshima AM, Matsuno Y, et al.	病理部
J Comput Assist Tomogr, 32(5);799-805,2008	Computed tomographic findings and prognosis in thymic epithelial tumor patients.	Yakushiji S, Matsuno Y, et al.	病理部
J Comput Assist Tomogr, 32(5);792-798,2008	Performance evaluation of 4 measuring methods of ground-glass opacities for predicting the 5-year relapse-free survival of patients with peripheral nonsmall cell lung cancer: a multicenter study.	Kakinuma R, Matsuno Y, et al.	病理部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
BMC Cancer, 8;328,2008	Clinicopathological significance of expression of p-c-Jun, TCF4 and beta-Catenin in colorectal tumors.	Takeda K, Itoh T, Matsuno Y, et al.	病理部
J Pathol, 216;75-82,2008	Expression profile of early lung adenocarcinoma: identification of MRP3 as a molecular marker for early progression.	Hanada S, Matsuno Y, et al.	病理部
Intern Med, 47(22);1967-1970,2008	Pancreatic metastasis from renal cell carcinoma with intraportal tumor thrombus.	Kawakami H, Matsuno Y, et al.	病理部
Cancer Sci, 100(1);158-164,2009	Japanese phase II study of 90Y-ibritumomab tiuxetan in patients with relapsed or refractory indolent B-cell lymphoma.	Tobinai K, Matsuno Y, et al.	病理部
Cancer Sci, 100(1);54-61,2009	Histological and immunophenotypic changes in 59 cases of B-cell non-Hodgkin's lymphoma after rituximab therapy.	Maeshima AM, Matsuno Y, et al.	病理部
Cancer Res, 69(4);1615-1623,2009	Whole genome comparison of allelic imbalance between noninvasive and invasive small-sized lung adenocarcinomas.	Nakanishi H, Matsuno Y, et al.	病理部
Diagn Cytopathol, 37(3);159-163,2009	Cytological features of signet-ring cell carcinoma of the lung: comparison with the goblet-cell-type adenocarcinoma of the lung.	Tsuta K, Matsuno Y, et al.	病理部
Am J Clin Pathol, 131(3);339-346,2009	Secondary CD5+ diffuse large B-cell lymphoma not associated with transformation of chronic lymphocytic leukemia/small lymphocytic lymphoma (Richter syndrome).	Maeshima AM, Matsuno Y, et al.	病理部
Lung Cancer, 64(2);160-165,2009	Clinicopathological analysis of primary lung carcinoma with heterotopic ossification.	Kuribayashi H, Matsuno Y, et al.	病理部
Intern Med, 47(7);603-608,2008	Autoimmune pancreatitis associated with hemorrhagic pseudocysts: a case report and literature review.	Kawakami H, Itoh T, Matsuno Y, et al.	病理部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pathol Int, 58(11);741-744,2008	Mucoepidermoid carcinoma of the thyroid gland showing marked ciliation suggestive of its pathogenesis.	Ando M, Matsuno Y, et al.	病理部
Neuropathology, 29(1);72-77,2009	Melanocytic medulloblastoma with ganglioneurocytomatous differentiation: A case report.	Kubota K, Itoh T, Yamada Y, Matsuno Y, et al.	病理部
病理と臨床, 26(8);867-869,2008	病理技術 簡便迅速セルブロック作製法-削ぎ落とし法-	丸川活司、森谷純、久保田佳奈子、羽賀博典、伊藤智雄、松野吉	病理部
インターメディカ, 内山草監修, 中畑龍俊・谷脇雅史・前川平編集, 東京,	BLOOD MASTER 一血液疾患症例に学ぶ一 悪性リンパ腫 病理診断	羽賀 博典	病理部
肝・胆・膵, 57;755-763,2008	【C型肝炎のすべて・2009】HCV疫学と病態Update C型肝炎の病理診断 移植後症例も含めて	羽賀 博典	病理部
検査と技術, 36;128-129,2008	私の一押し免疫染色INI1(BAF47)	久保田佳奈子、伊藤智雄	病理部
MOOK 2008-2009, 加藤治文・西條長宏・福岡正博・小林絏一・海老原義	神経内分泌腫瘍	道免寛充、松野吉宏	病理部
ナーシングケア, 19;21-23,2008	肺癌の病理組織診断と細胞診断-前癌病変-	道免寛充、松野吉宏	病理部
臨床血液, 49;1536-1540,2008	Rituximab投与によりCD20の陰性化が認められたCD20陽性・CyclinD1陽性多発性骨髄腫	白鳥総一、久保田佳奈子、他	病理部
脳神経外科, 36;1127-1132,2008	Dermal sinusに合併した脊髄内外巨大腫瘍の1例	栗栖宏多、久保田佳奈子、他	病理部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Technology, 36(8);801-803,2008.	バーチャルスライドの応用-厚労省が目指すもの	松野吉宏	病理部
画像診断, 28(8);716-717,2008.	Chronic expanding hematoma 画像診断と病理	大山徳子、久保田佳奈子、松野吉宏	病理部
第9回臨床血液談話会、札幌、2008.4.18	ホジキンリンパ腫 - 失われゆく巨人? -	松野吉宏	病理部
第97回日本病理学会総会、金沢、2008.5.15-5.17	移植腎におけるBKウイルス感染固定のための尿検査からのセルブロック作成の有効性	久保田佳奈子、山田洋介、ヘールナンデス真子、伊藤智雄、松野吉宏	病理部
第97回日本病理学会総会、金沢、2008.5.15-5.17	原発性乳房外Paget病における高分子量サイトケラチンの発現	山田洋介、久保田佳奈子、ヘールナンデス真子、伊藤智雄、羽賀博	病理部
第97回日本病理学会総会、金沢、2008.5.15-5.17	GIST悪性度診断のためのKi-67免疫組織化学染色の標準化	畑中豊、松野吉宏、他	病理部
第97回日本病理学会総会、金沢、2008.5.15-5.17	神経系、軟部組織及び胸壁における血管周皮腫と孤立性線維性腫瘍の組織病理学的解析	谷野美智枝、久保田佳奈子、伊藤智雄、松野吉宏、他	病理部
第97回日本病理学会総会、金沢、2008.5.15-5.17	Secondary CD5+ diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL)の8例	前島亜希子、松野吉宏、他	病理部
第97回日本病理学会総会、金沢、2008.5.15-5.17	全身性IgG4関連病変が示唆された肝の炎症性偽腫瘍を伴う硬化性胆管炎の1例	高橋利幸、松野吉宏、他	病理部
日本外科学会、長崎、2008.5.15-5.17	局所リンパ節転移陽性の胆道癌症例における大動脈周囲リンパ節の微小転移の予後的意義	米森敦也、伊藤智雄、道免寛充、久保田佳奈子、松野吉宏、他	病理部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第57回日本医学検査学会、札幌、2008.5.30	当院における臓器処理法-組織分解減容装置の使用経験	黒川孝子、丸川活司、森谷純、斉藤幸恵、小関美穂	病理部
第57回日本医学検査学会、札幌、2008.5.31	免疫組織化学染色における精度管理 安定した染色結果を得るために (シンポジウム)	丸川活司、伊藤智雄、他	病理部
第57回日本医学検査学会札幌:2008.5.31	北臨技形態部門の活動-病理技術講習会「匠」	丸川活司、他	病理部
第49回日本臨床細胞学会(春期大会)、東京、2008.6.6-6.8	超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)における免疫細胞化学染色の有用性	丸川活司、森谷純、黒川孝子、斉藤幸恵、小関美穂、清水幹雄、久	病理部
第49回日本臨床細胞学会(春期大会)、東京、2008.6.6-6.8	甲状腺腫瘍と識別を要した副甲状腺癌の1例	斉藤幸恵、森谷純、丸川活司、小関美穂、黒川孝子、清水幹雄、伊	病理部
第49回日本臨床細胞学会(春期大会)、東京、2008.6.6-6.8	肺肉腫様癌の細胞所見	廣島健三、松野吉宏、他	病理部
第48回日本リンパ網内系学会総会、札幌、2008.6.13-6.14	臨床症状を伴った心へのinvolvementを契機として発見された、diffuse large B-cell lymphoma の2例	山田洋介、久保田佳奈子、遠藤知之、中田匡信、ヘールナンデス真	病理部
第48回日本リンパ網内系学会総会、札幌、2008.6.13-6.14	WHO悪性リンパ腫分類第4版の免疫不全関連リンパ増殖異常症	羽賀博典	病理部
第1回若手医師のためのリンパ腫セミナー、札幌、2008.6.14	リンパ腫の病理診断入門	松野吉宏	病理部
第26回日本肝移植研究会、横浜、2008.6.19-6.20	Byler diseaseの生体間移植後に著しい脂肪肝を呈した1例	久保田佳奈子、羽賀博典、松野吉宏、他	病理部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
愛媛リンパ腫研究会、松山、2008.6.21	悪性リンパ腫の病理診断－最近の話題から－	松野吉宏	病理部
第130回日本病理学会北海道支部学術集会、札幌、2008.7.12	高齢者の小腸に発生したFollicular dendritic sarcoma の1例	山田洋介、久保田佳奈子、ヘールナンデス真子、羽賀博典、松野吉	病理部
第12回移植腎病理研究会学術集会、東京、2008.7.19	免疫抑制剤減量により寛解に至った中枢神経の腎移植後リンパ増殖性疾患の1例	藤田裕美	病理部
第5回病理夏の学校、札幌、2008.8.31	国家試験に役立つ病理知識	久保田佳奈子	病理部
第7回日本テレパソロジー・バーチャルマイクロスコープ研究会総会、東	病理診断支援体制の整備とVMの役割	松野吉宏、他	病理部
第57回細胞検査士ワークショップ、札幌、2008.9.13	細胞診に基づく肺癌の特性診断	松野吉宏	病理部
第44回日本移植学会総会、大阪、2008.9.19-9.21	病理セミナーヒト移植臓器拒絶反応の病理組織診断基準肝臓移植	羽賀博典	病理部
第50回日本血液学会秋季地方会、札幌、2008.9.20	節外性低悪性度B細胞性リンパ腫をめぐって	松野吉宏	病理部
第96回呼吸器学会北海道支部学術集会、札幌、2008	肺結核治療中に発症したリンパ腫様肉芽腫症の一例	森岡崇、松野吉宏、他	病理部
北海道女性医師の会、札幌、2008.10.20	女性医師の今	久保田佳奈子	病理部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第67回日本癌学会学術総会、名古屋、2008.10.28-10.30	異型腺腫様過形成を併発した肺腺がんへのリストとKRAS遺伝子多型の相関	河野隆志、松野吉宏、他	病理部
第67回日本癌学会学術総会、名古屋、2008.10.28-10.30	CNAG/AsCNARを用いたSNPアレイ解析による眼付属器原発MALリンパ腫の検討 English Workshops: 造血管腫瘍	朝倉義崇、松野吉宏、他	病理部
第67回日本癌学会学術総会、名古屋、2008.10.28-10.30	肺腺がんにおけるp16遺伝子のホモ欠失と臨床病理学的所見およびEGFR・KRAS・p53変異との関連性	岩川麗香、松野吉宏、他	病理部
第67回日本癌学会学術総会、名古屋、2008.10.28-10.30	がん診療画像データベースにおける病理画像呈示	松野吉宏、他	病理部
第49回日本肺癌学会総会、北九州、2008.11.13-11.14	肺腺癌における術前FDG-PETのSUV値に対応した病理組織学的所見の検討(第2報)	道免寛充、松野吉宏、久保田加奈子、羽賀博典、他	病理部
第49回日本肺癌学会総会、北九州、2008.11.13-11.14	がん診療画像レファレンスデータベース: サイトリニューアル	女屋博昭、松野吉宏、他	病理部
第29回日本臨床細胞学会北海道支部学術集会、札幌、2008.11.16	超音波内視鏡下膵臓穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)における免疫細胞化学染色の有用性	丸川活司、斉藤幸恵、黒川孝子、森谷純、清水幹雄、久保田佳奈	病理部
第29回日本臨床細胞学会北海道支部学術集会、札幌、2008.11.16	肺に転移したエナメル上皮癌の一例	森谷純、斉藤幸恵、黒川孝子、丸川活司、清水幹雄、久保田佳奈	病理部
第54回日本病理学会秋季特別総会、松山、2008.11.20-11.21	強皮症を背景とする心筋疾患により死亡した中年男性の1例	山田洋介、進藤正信、王磊、ヘールナンデス真子、久保田佳奈子、	病理部
日本臨床細胞学会九州連合会&沖縄支部主催、宮古島、2008.11.28	体腔液細胞診のpitfall	丸川活司	病理部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
平成20年度北海道大学病院研修医セミナー、札幌、2008.12.4	ワンランク上をめざす人のための病理診断活用法	松野吉宏	病理部
泌尿器科医局研究発表会、札幌、2008.12.6	がん治療の標準化と病理診断	松野吉宏	病理部
第43回日本病理学会近畿支部学術集会、大坂、2008.12.6	肝の炎症性疾患 肝生検に用いる特殊染色と免疫染色	羽賀博典	病理部
第1回北海道リンパ腫研究会、札幌、2009.1.24	悪性リンパ腫の病理診断－プロローグにかえて－	松野吉宏	病理部
第149回北海道臨床衛生検査技師会講習会、札幌、2009.1.24	膵臓癌正診率アップへの取り組み	丸川活司	病理部
JSCT研究会学術講演会、札幌、2009.2.4	悪性リンパ腫 新WHO分類による診断・治療 注意すべきポイント:病理医・臨床医の視点から	松野吉宏	病理部
第21回細胞診従事者講習会シンポジウム、札幌、2009.2.22	「体腔液標本作製法の標準化を目指して」－体腔液マニュアルと標準化－	丸川活司	病理部
J Am Acad Dermatol	DNA-based prenatal exclusion of harlequin ichthyosis.	Yanagi T	皮膚科
Hum Mol Genet	Harlequin ichthyosis model mouse reveals alveolar collapse and severe fetal skin barrier defects.	Yanagi T	皮膚科
Br J Dermatol	Congenital ichthyosiform erythroderma mimicking ichthyosis bullosa of Siemens.	Tsubota A	皮膚科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Invest Dermatol	Mild recessive bullous congenital ichthyosiform erythroderma due to a previously unidentified homozygous keratin 10 nonsense mutation.	Tsubota A	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Cutaneous pemphigus vulgaris with skin features similar to the classic mucocutaneous type: a case report and review of the literature.	Shinkuma S	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Usefulness of thermography techniques for evaluating the disease activity in Kimura's disease.	Shinkuma S	皮膚科
Ann Hematol	Precursor B-cell lymphoblastic lymphoma presented with intraocular involvement and unusual skin manifestations.	Shinkuma S	皮膚科
Arch Dermatol	Depressed area on the abdomen: lipodystrophia centrifugalis abdominalis infantilis (LCAI).	Shinkuma S	皮膚科
J Am Acad Dermatol	Metastatic rhabdomyosarcoma of the skin.	Shinkuma S	皮膚科
Acta Derm Venereol	Large subcutaneous abscesses caused by Mycobacterium fortuitum infection.	Moriuchi R	皮膚科
J Am Acad Dermatol	A novel ATP2A2 missense mutation p.Asp254Gly in Darier disease restricted to the extremities.	Moriuchi R	皮膚科
J Am Acad Dermatol	Aggressive angiomyxoma of the vulva.	Fujita Y	皮膚科
Am J Hum Genet	Oncostatin M receptor-beta mutations underlie familial primary localized cutaneous amyloidosis.	Arita K	皮膚科

計

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Br J Dermatol	A novel mutation in the VDR gene in hereditary vitamin D-resistant rickets.	Arita K	皮膚科
J Dermatol Sci	High expression of Ki-67 and cyclin D1 in invasive extramammary Paget's disease.	Aoyagi S	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Extensive proliferative nodules in a case of giant congenital naevus.	Aoyagi S	皮膚科
Am J Pathol	CGI-58 is an alpha/beta-hydrolase within lipid transporting lamellar granules of differentiated keratinocytes.	Akiyama M	皮膚科
Br J Dermatol	Novel compound heterozygous nonsense and missense ABCA12 mutations lead to nonbullous congenital ichthyosiform erythroderma.	Akiyama M	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Acquired perforating dermatosis appearing as elastosis perforans serpiginosa and perforating folliculitis.	Abe R	皮膚科
Int J Dermatol	Disseminated subcutaneous nodules alone as manifestations of Churg-Strauss syndrome.	Abe R	皮膚科
Oral Oncol	Initial CT findings in early tongue and oral floor cancer as predictors of late neck metastasis	Furusawa J	耳鼻咽喉科
Int J Clin Oncol	Surgical complications of salvage total laryngectomy following concurrent chemoradiotherapy	Furuta Y	耳鼻咽喉科
Eur Arch Otorhinolaryngol	Computer image-guided surgery for total maxillectomy	Homma A	耳鼻咽喉科

計

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Res	Tripartite motif protein 32 facilitates cell growth and migration via degradation of Abl-interactor 2	Kano S	耳鼻咽喉科
Prostate	Increased distributional variance of mitochondrial DNA content associated with prostate cancer cells as compared with normal prostate cells	Mizumachi T	耳鼻咽喉科
Oncogene	Increased mitochondrial DNA induces acquired docetaxel resistance in head and neck cancer cells	Mizumachi T	耳鼻咽喉科
Curr Opin Otolaryngol Head Neck Surg	The diagnosis and management of globus: a perspective from Japan	Oridate N	耳鼻咽喉科
Dig Dis Sci	Acid-suppression Therapy Offers Varied Laryngopharyngeal and Esophageal Symptom Relief in Laryngopharyngeal Reflux Patients	Oridate N	耳鼻咽喉科
J Gastroenterol	Evaluation of upper abdominal symptoms using the Frequency Scale for the Symptoms of Gastroesophageal Reflux Disease in patients with laryngopharyngeal reflux symptoms	Oridate N	耳鼻咽喉科
Cancer Lett	Constitutive activation of AKT pathway inhibits TNF-induced apoptosis in mitochondrial DNA-deficient human myelogenous leukemia ML-1a	Suzuki S	耳鼻咽喉科
J Nucl Med	Prolonged high-fat feeding enhances aortic 18F-FDG and 99mTc-annexin A5 uptake in apolipoprotein E-deficient and wild-type C57BL/6J mice.	Zhao Y	核医学分野
J Nucl Med	Repeatability of rest and hyperemic myocardial blood flow measurements with 82Rb dynamic PET.	Manabe O	核医学分野
J Nucl Med	A New PET Scanner with semiconductor detectors enables better identification of intratumoral inhomogeneity.	Shiga T	核医学分野

計

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Nucl Med	Myocardial beta-adrenergic receptor density assessed by 11C-CGP12177 PET predicts improvement of cardiac function after carvedilol treatment in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Naya M	核医学分野
Nurorehabilitation and Neural Repair 22(5); 2008	Bone Marrow Stromal Cells Promote Neurite Extension in Organotypic Spinal Cord Slice:Significance for Cell TransplantationTherapy	Hideo Shichinohe,MD.PhD,Satoshi Kuroda	神経外科
J.Neurosurg./March 6,2009	Effect of biodegradable fibrin scaffold on survival,migration,and differentiation of transplanted bone marrow stromal cells after cortical injury in rats	Hiroshi Yasuda, M.D.,Phd,Satoshi kuroda	神経外科
2008 Japanese Society of Neuropathology	Fibrin matrix provdes a sutable scaffold for bone marrow stromal cells transplanted into injured spinal cord:A novel material for CNS tissu engineering	Hiroyuki Itosaka,Satoshi Kuroda	神経外科
2008 Japanese Society of Neuopathology	Transplanted bone marrow stromal cells improves cognitive dysfunction due to diffuse axonal injuy in rats	Katsuhiko Maruichi,Satoshi Kuroda	神経外科
Cytokine 46(2009)260-266	Synergistic effects of granulocyte-colony stimulating factor on bone marrow stromal cell transplantation for mice cerebral infarst	Masaaki Hokari,Satoshi Kuroda	神経外科
Am J Transplant 8(1):250-252, 2008 Jan	Does the permanent portacaval shunt for a small-for-size graft in a living donor liver transplantation do more harm than good?	Oura T	第1外科
Surg Endosc 22(1):81-85, 2008 Jan	Laparoscopic gastrectomy for early gastric cancer targeting as a less invasive procedure.	Kawamura H	第1外科
Oncogene 27(4):441-449, 2008 Jan	Novel risk stratification of patients with neuroblastoma by genomic signature, which is independent of molecular signature	Tomioka N	第1外科
日本臨床外科学会雑誌 69(2):433-437, 2008.2	「術後5年目にポート部再発巣を切除した腹腔鏡下胆嚢摘出後偶発胆嚢癌の1例」	腰塚靖之	第1外科

計

- (注)
- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
 - 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Artif Organs 32(3):188-194, 2008 Mar	Noble gene transduction into pancreatic beta-cells by singularizing islet cells with low doses of recombinant adenoviral vector.	Tsukiyama S	第1外科
J Hepatol 48(3):422-432, 2008Mar	Preventing hypoxia/reoxygenation damage to hepatocytes by p66(shc) ablation: Up-regulation of anti-oxidant and anti-apoptotic proteins	Haga S	第1外科
J Pediatr Surg 43(3):579-582, 2008 Mar	Usefulness of axial planes of helical computed tomography for diagnosis of pancreaticobiliary maljunction in early infants with negative findings on magnetic resonance cholangiopancreatography.	Okada T	第1外科
Transplant Proc 40(2):617-619, 2008 Mar	Effect of intrasplenic transplantation of immortalized human hepatocytes in the treatment of acetaminophen-induced acute liver failure SCID mice.	Tsuruga Y	第1外科
Surgery 143(4):545-555, 2008 Apr	Factor-alpha suppressant, ONO-SM362, prevents liver failure and promotes liver regeneration after extensive hepatectomy.	Ogata T	第1外科
Lancet 371(9619):1173-1180, 2008 Apr	Effectiveness of screening for neuroblastoma at 6 months of age: a retrospective population-based cohort study	Hiyama E	第1外科
日本臨床外科学会雑誌 69(4):936-940, 2008.4	「腹腔内デスマイド腫瘍の2例」	正村裕紀	第1外科
J Pediatr Surg 43(5):E13-17, 2008 May	Hirschsprung's disease, acrocallosal syndrome, and congenital hydrocephalus: report of 2 patients and literature review.	Nakakimura S	第1外科
Jpn J Appl Phys 47(2), 1429-1434, 2008 Jun	Enhanced cell survival and yield of rat small hepatocytes by honeycomb-patterned films	Tsukiyama S	第1外科
北海道外科雑誌53(1): 43-47, 2008.6	「睡眠時無呼吸症候群を伴った巨大甲状腺腫の1例」	蔵谷大輔	第1外科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
内分泌外科25(2):127-133, 2008.6	「嚢胞形成を伴った甲状腺乳頭癌の4例」	細田充主	第1外科
Biochem Biophys Res Commun 371(4):829-833, 2008 Jul	NFBD1/MDC1 stabilizes oncogenic MDM2 to contribute to cell fate determination in response to DNA damage	Inoue K	第1外科
Cryobiology 57(1), 46-51, 2008 Aug	Hypothermic preservation effect on mammalian cells of type III antifreeze proteins from notched-fin eelpout.	Hirano Y	第1外科
Pediatr Int 50(4):576-580, 2008 Aug	Management and outcome in prenatally diagnosed sacrococcygeal teratomas.	Okada T	第1外科
J Gastroenterol Hepatol 23(8 Pt 1):1235-1241, 2008 Aug	Preoperative evaluation of hepatic functional reserve by converted ICGR15 calculated from Tc-GSA scintigraphy.	Kawamura H	第1外科
International Journal of Cancer 123(5):1117-1125, 2008 Sep	The methylation status of RASSF1A promoter predicts responsiveness to chemotherapy and eventual cure in hepatoblastoma patients	Honda S	第1外科
J Surg Res 149(1):69-75, 2008 Sep	The Novel NF-kappaB Inhibitor, Dehydroxymethylepoxyquinomicin, Prevents Local and Remote Organ Injury Following Intestinal Ischemia/Reperfusion in Rats	Suzuki T	第1外科
J Biol Chem 283(36):24426-24434, 2008 Sep	KIF1Bbeta functions as a haploinsufficient tumor suppressor gene mapped to chromosome 1p36.2 by inducing apoptotic cell death	Munirajan AK	第1外科
日本消化器外科学会雑誌41(9):1692-1697, 2008.9	「術前診断に苦慮した限局性結節性過形成の1切除例」	柴崎晋	第1外科
日本臨床外科学会雑誌69(10):2479-2484, 2008.10	「乳腺metaplastic carcinomaの2例」	細田充主	第1外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本農村医学会雑誌 57(4):619-627, 2008.11	「腹腔鏡下胃切除における費用効果の調査研究」	川村秀樹	第1外科
World J Surg 32(11):2366-2370, 2008 Nov	Inspection of safety and accuracy of D2 lymph node dissection in laparoscopy-assisted distal gastrectomy	Kawamura H	第1外科
Turk J Pediatr 50(6):542-548, 2008 Nov-Dec	CD56-immunostaining of the extrahepatic biliary tree as an indicator of clinical outcome in biliary atresia: a preliminary report	Okada T	第1外科
北海道外科雑誌53(2): 27-31,2008.12	「sm・mp大腸癌の転移・再発－腹腔鏡時代における治療、フォローアップの指針－」	前田好章	第1外科
日本臨床外科学会雑誌 69(12):3053-3060, 2008.12	「バリアンスを利用した胃切術後合併症の早期発見・予測 多施設での検討」	川村秀樹	第1外科
Hepatology 48(6):1851- 1863, 2008 Dec	Proteomic profiling reveals the prognostic value of adenomatous polyposis coli-end-binding protein 1 in hepatocellular carcinoma	Orimo T	第1外科
Br J Cancer 99(11):1891-1899, 2008 Dec	Loss of imprinting of IGF2 correlates with hypermethylation of the H19 differentially methylated region in hepatoblastoma	Honda S	第1外科
Cell Transplant 17(9):1083-1094, 2008	Establishment of immortalized human hepatocytes by introduction of HPV16 E6/E7 and hTERT as cell sources for liver cell-based therapy	Tsuruga Y	第1外科
dominant-negative mutant. Br J Cancer. 98:915-22, 2008	Growth inhibition of non-small cell lung cancer cells by AP-1 blockade using a cJun	Shimizu Y	腫瘍内科
nonsmall lung cancer cells correlates with poor prognosis. Cancer.	Up-regulation of CD40 with juxtacrine activity in human	Ishikawa K	腫瘍内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Immun. 8:13-18, 2008.	Prolonged survival of patients with lung adenocarcinoma expressing XAGE-1b and HLA class I antigens	Kikuchi E	腫瘍内科
BMC Cancer. 8:328-336, 2008	Clinicopathological significance of expression of p-c-Jun, TCF4 and beta-Catenin in colorectal tumors	Takeda K	腫瘍内科
Br J Cancer. 99:2013-9, 2008.	Simultaneous blockade of AP-1 and phosphatidylinositol 3-kinase pathway in non-small cell lung cancer cells	Kikuchi J	腫瘍内科

計373

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 浅 香 正 博		
管理担当者氏名	総務課長 山 崎 賢 司 薬剤部長 井 関 健	医事課長	成 田 博 昭

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科 診療録管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・病歴資料については、診療科毎に作成、保管管理（一診療科一診療録） ・処方せんについては、薬剤部において保管管理 ・エックス線写真については、各診療科において保管管理 なお、平成12年10月1日以降退院する患者に係る入院診療録（看護記録、サリ-を含む）及び外来診療録の一部は、診療録管理室にて保管管理
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
確保規則の第9条の2、3及び第1条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	総務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 浅 香 正 博
閲覧担当者氏名	総務課長 山 崎 賢 司
閲覧の求めに応じる場所	会 議 室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯 科 医 師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	70.6%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,024人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,315人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		501人
	D: 初診の患者の数		26,874人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (GRM 4名)
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名)
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none">・ 所属職員： 専従 (GRM2+事務2) 名 専任 (GRM2) 名 兼任 (19) 名・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療の質向上に向けた対策の検討、実施・ 医療事故防止に関する対策の実施・ インシデント報告書等の管理及び分析・ 医療安全に関する職員研修の企画・実施・ リスクマネジメントに関する委員会の調整・連携機能	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：医療に係る安全管理のための指針として、医療安全管理マニュアルを整備している。基本方針として「患者さんのための医療の提供」、「チーム医療の推進」を目指し、職域の枠を超えた安全な医療、診療科・部署を超えた組織横断的な医療を提供する。医療安全管理体制として、組織的知の共有として組織的学習メカニズムを図り、スタッフ参画・現場主導の安全管理体制とともに現場支援体制の確立を図る。患者参加型の医療安全を推進する。基本方針、医療安全管理体制以外として、共通マニュアル、医療機器説明、診療科・部署マニュアル、関連マニュアルで構成し、共通マニュアルは現場状況変化に合わせて随時改訂、診療科・部署マニュアルは2年毎に改訂を検討し整備している。指針の周知を図るためにポケットマニュアルの改訂を検討し、平成20年度に全職員に配付した。	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	20年度12回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療事故防止対策の検討及び推進に関すること・ 医療事故等の対応及び原因究明に関すること・ 医療事故等の情報収集及び分析に関すること・ 医療事故防止に関する職員の教育・研修に関すること	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	20年度788回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：医療に係る安全管理のための職員研修は医療安全管理部主催研修と診療科・部署主催研修として実施している。【医療安全管理部主催研修】医療安全の日の講演会「患者側弁護士からみた医療事故対策」と医療安全の標語・ポスター募集講演会「医療安全を推進するために～RCA (根本原因分析法) の新たな可能性～」講演会「ヒューマンファクター工学に基づく医療現場におけるエラー低減活動」	

講演会「医療安全を支えるコミュニケーション」

講習会「医薬品に関する業務基準等の説明会」

講習会「採血・穿刺による神経損傷の予防」

講習会「慢性的経過事例の対応」

講習会「一次救命処置講習会」9回

研修「インシデント事例分析研修」

研修「メディエーター研修 基礎課程」

各診療科等への出張研修 9回

【卒後研修センター・医療安全管理部共催研修】

「研修医のリスクマネジメント研修Ⅰ」、「研修医のリスクマネジメント研修Ⅱ」、

「研修医のリスクマネジメント研修Ⅲ」

「異動後の医師研修」2回

【診療科・部署主催研修】

救急シミュレーションなど、診療科・部署において医療安全管理のための研修の実施を推進し、診療科・部署での医療安全管理の研修として総計738件（受講者数9,478名）実施されている。

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - インシデント報告後の現場調査と改善に向けた協議を随時実施し、必要時関係者合同会議などの開催し、改善策を明確化する。
 - 重大事故の可能性のある事案に関してはRCA分析チームを編成し原因分析・再発防止策を作成し、再発防止策の定期的評価を実施。
 - 重大な事案の発生時はゼネラルリスクマネジャーによる現場調査を実施し、原因分析の上事実調査報告書や事例報告書を作成し改善策を明確にする。
 - 月別インシデント集計・分析の実施と優先的課題について検討。
 - 年間インシデント集計・分析の実施と今後の課題策定。
 - 分娩安全管理体制専門委員会からの再発防止策を実施。
 - 造影CT・MRI検査依頼時の説明・承諾書の取得を徹底化の取り組み。
 - 人工呼吸器パトロールの実施と職場単位の指導者(人工呼吸器認定者)の養成。
 - 診療記録の診療科間相互チェックの実施。
 - インフォームド・コンセントの体制充実とともに説明・承諾書の改訂・新規作成。
 - ゼネラルリスクマネジャーによるセーフティパトロールの実施による現場調査と支援
 - 病院長によるセーフティパトロールの実施により現場実態の把握。
 - 患者相談窓口との定期会議の開催。

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・指針の主な内容</p> <p>院内感染を未然に防止するとともに、ひとたび感染症が発生した際には、拡大防止のためにその原因を速やかに特定して、これを制圧、終息させる。また、院内感染防止対策を全職員が把握し、病院の理念に則った医療を提供することを目指す。</p>	
②院内感染対策のための委員会開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染防止対策の検討及び推進 ・ 院内感染防止の対応及び原因究明 ・ 院内感染等の情報収集及び分析 ・ 院内感染防止等に関する職員の教育・研修 	
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	20 年度 51 回
<p>・研修の主な内容（対象者には職員の他、外部委託者・ボランティアを含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染対策講演会「本院における院内感染対策」 ・ 新規感染対策マネージャー講習会「感染防止の基礎」「手洗い実習」 ・ 研修医院内感染対策研修「感染防御具の脱着方法」 ・ 専門領域研修会感染管理「感染制御の基本」 ・ 事務系職員感染対策講習会「事務における感染対策」「手洗い実習」 ・ 清掃外注職員研修「血液、体液、排泄物の危険性」 	
④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	

- ・病院における発生状況の報告等の整備 (㊦・無)
- ・その他の改善のための方策の主な内容
 - ・感染対策指針及び感染対策マニュアルを改訂した。
 - ・感染制御部を病院長直結の部署とし、院内感染対策体制を整備拡充した。
 - ・感染対策委員会の構成員を関連部署の責任者と実際に業務にあたる職員に厳選し、より迅速に、かつ、実効性のある委員会に改編した。
 - ・重大な院内感染事例が発生した場合、必要かつ迅速な対応をとるために、感染対策委員会特別部会を設置した。
 - ・耐性菌サーベイランス等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
 - ・同内容で院内感染対策講演会を2回実施し、受講機会の充実を図った。

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	20年度49回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【医療安全管理部主催研修】 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」 インスリン療法安全管理講習会、糖尿病安全管理講習会</p> <p>【薬剤部・化学療法部主催研修】 「食道癌の化学療法」「婦人科がんの標準治療と化学療法」「血管確保、カテーテル、ポート管理」「療法と看護ケア」「抗悪性腫瘍について」「癌疼痛ケア」「緩和ケアチームについて」「抗癌剤被爆」「インフォームドコンセント：癌告知」「抗がん剤の血管外漏出」「臨床試験について」「大腸癌の薬物療法」「乳癌外来化学療法」「細胞肺癌診療における現状と最新の知見」「小細胞肺癌の薬物療法」「悪性リンパ腫」「多発性骨髄腫」「白血病」「胃癌の薬物療法」「食道癌の薬物療法」「卵巣癌標準治療の実際」「小児癌の薬物療法」「泌尿器科癌に対する薬物療法」「原発不明癌」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)</p> <p>・ 業務の主な内容： <u>医薬品の安全使用のための手順書として、医薬品安全管理専門委員会と各ワーキングにて下記の手順書を作成・整備している。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト <ol style="list-style-type: none"> (1) 特に安全管理が必要な薬剤リスト (2) 配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬 (3) 誤認に注意薬剤 2) 指示・伝達ルール <ol style="list-style-type: none"> (1) 指示・伝達ルール (2) 口頭指示は原則禁止 3) 内服薬に関する管理基準 <ol style="list-style-type: none"> (1) 内服薬管理基準 (2) 薬剤管理指導業務手順書 (3) 入院患者の持参薬確認業務手順書 4) 注射薬に関する管理基準 <ol style="list-style-type: none"> (1) 注射業務管理基準 (2) 注射薬混合調製(ミキシング)手順書 5) 危険性の高い薬剤・抗癌剤に関する手順書 <ol style="list-style-type: none"> (1) 危険性の高い薬剤の取扱い手順書 	

- (2) 抗がん剤の投与に関する手順書
- (3) 抗菌剤皮内反応に関する対策
- (4) 抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および抜歯・手術時の対応
- (5) 抗癌剤被爆防止に関するマニュアル
- (6) ビグアナイド系糖尿病薬服薬中のヨード造影剤使用の検査について
- 6) 医療安全情報管理体制
 - (1) 医療安全性情報管理体制
 - (2) 薬剤部における医薬品情報管理手順
- 7) 医薬品管理
 - (1) 病棟における注射剤管理業務手順書
 - (2) 病棟における薬剤師業務基準
- 8) インスリン療法マニュアル
 - (1) インスリン療法マニュアル
 - (2) インスリンマップ

医薬品の安全使用のための業務の実施状況として

平成19年5月にて医薬品使用に関する業務調査を実施し、実態を把握。その上、専門委員会やワーキングなどで医薬品業務に関する改訂を実施した。
 平成20年3月に医薬品業務に関する説明会を開催し、改訂した手順書の周知を図り、平成20年7月に医薬品に関する業務調査を実施して業務の実施状況を把握した。
 今後は、その結果をもとに診療科・部門の医療安全マニュアル改訂内容を確認し、業務基準との整合性を確認する予定である。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 医薬品の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備し、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成。それに基づき、日本医療評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」としてメールに診療科・部門に提供。関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは緊急情報提供と点検のお願いにて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。
 - 薬剤部における医薬品情報管理手順に基づき、医薬品に関する情報を提供。
 - 処方・与薬のインシデント分析の結果、危険性の高い医薬品に関するリスト作成し、「注意を要する医薬品の検索プログラム」を構築中。
 - 医薬品に関するインシデントの分析結果を基にeラーニングシステムを構築中。
 - 医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会を検討。

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	20年 17回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>院内研修 【医療安全管理部主催研修】 人工呼吸器安全管理講習会（基礎課程2回・認定過程1回） 医療機器に関する研修 「輸液・シリンジポンプ編」4回</p> <p>【ME機器管理センター内研修】 医療機器管理に関する臨床工学技士研修会10回</p> <p>【放射線部内研修】 放射線部放射線治療部門にて毎週の診療カンファランスで、放射線機器等に関する報告を行い、情報を共有。週毎の線量測定にて、従事者の線量測定の研修を実施。</p> <p>院外研修 【放射線部として】 日本放射線技術学会放射線治療セミナー受講</p> <p>【ME機器管理センターとして】 日本人工臓器学会教育セミナーの受講、日本体外循環技術医学会教育セミナーの受講</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 （有）</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 医療機器管理システムを使用し、使用している医療機器の種類毎に保守点検計画の策定、実施、及び、実施の確認をしている。</p> <p>【中央管理機器】 ME機器管理センターで、日常点検・稼働後の点検、3ヶ月等の定期点検、年点検の実施不具合発生時の現場調査と故障点検の実施。 故障時のメンテナンスとメーカーとの調整。</p> <p>【放射線部管理機器】 放射線診療従事者より、①始業点検、②2回/月以上の出力線量測定、③3ヶ月及び6ヶ月毎に放射線及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。 他に製造メーカーと保守契約を結び年間3回の定期メンテナンスを実施している。</p> <p>【診療科・部門管理機器】 医療機器管理システムを使用して、管理課で保守点検計画により機器のリストを作成し、機器の保守点検を実施を予定。</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
医療機器の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備。
それに基づき、日本医療評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」としてメールに診療科・部門に提供。
関係機関やメーカーからの医療機器に関する情報、新聞報道からの事故情報などは緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼。
また、ME機器管理センターからメールにて医療機器情報を現場へ提供。
医療機器を管理するための履歴管理書式を作成し、北海道大学病院の医療機器管理体制を明文化し周知。
人工呼吸器稼働状況・医療機器に関する実態調査により、機器の更新に関して管理課と調整。
医療機器の不具合情報・インシデントについて集計・分析し、医療機器安全管理専門委員会での方策の検討。
医療機器に関するインシデントの分析結果を基にeラーニングシステムを導入し、教材を整備中。